



令和5・6年度 幼児教育研究

みんなでつくろう ほっと安心  
笑顔いっぱいのかども園  
～自分も大事 みんなも大事～

〈2年次 研究報告〉



八尾市立  
南山本せせらぎこども園

令和7年1月  
八尾市  
八尾市教育委員会

# もくじ

## 第1章 研究について

- |              |   |
|--------------|---|
| 1. 研究テーマについて | 1 |
| 2. 研究方法      | 4 |
| 3. 研究実績一覧    | 6 |

## 第2章 各学年・専門職の取り組み

- |            |    |
|------------|----|
| 1. 0歳児     | 7  |
| 2. 1歳児     | 13 |
| 3. 2歳児     | 19 |
| 4. 3歳児     | 25 |
| 5. 4歳児     | 31 |
| 6. 5歳児     | 37 |
| 7. 一時預かり保育 | 43 |
| 8. 調理員・栄養士 | 45 |
| 9. 看護師     | 46 |

## 第3章 ほっと安心・笑顔いっぱいのこども園

- |                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 1. 自分も大事、みんなも大事にしようとする子どもを育てために | 47 |
| 2. 研究を通して分かったこと                 | 53 |
| 3. おわりに                         | 54 |



# 第1章 研究について



## 第1章 研究について

### 1. 研究テーマについて

#### (1) 研究テーマについての考え方

毎日を過ごすこども園が、子ども・保護者・保育者にとって安心して笑顔で過ごせる場所であることが大前提である。

そこで、まず子どもが安心して過ごすために、園が居心地のよい空間であり、自分の思いを表出でき、ありのままの自分でいられることであると考えた。そのためには、保育者の『肯定的な見取り』『あたたかいかかわり』『生活・遊び環境の充実』に着目することにした。教育・保育の中で、子どもが大人からのあたたかな愛情を感じたり、自分のしていることを認められたりすることで、自分は愛されていると感じ、自分を大切にしようとする自尊心や自己肯定感を育めると考えた。また、色々な遊びを楽しむことや様々な人とのかかわりを通して、自分の周りにいる人を大切にしようとする思いやりの心や尊重する気持ちを育むことにもつながっていくと考えた。

保護者が安心して子育てするために、園は子どもの姿を知らせたり、戸惑いや不安、子育てについて、相談しやすい関係性を築いたりすることが求められる。さらに、一人で抱え込むことなく子どもと一緒に笑顔で安心してこども園に通え、預けられるように努めていくことにも配慮していかなければならない。

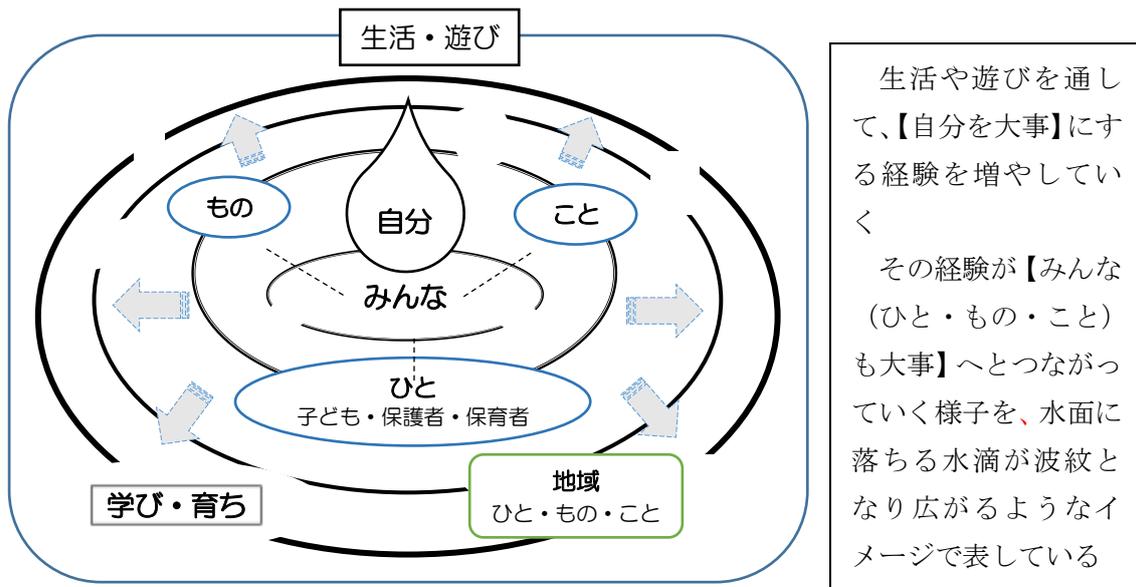
子どもと保護者を支える保育者にとっては、職員同士が話しやすい雰囲気であることが第一である。日々、保育内容や子どもへのかかわり方について悩みは尽きないので、相談したい時に相談できる職員間の関係性や時間や場の確保が必要になる。また、知りたい情報をすぐに知れたり、共有し合ったりする中で、多様な意見を聞け、自身の考え方が広がることで、教育・保育の質を高める要因になると考えた。

サブテーマにある【自分も大事】とは、子どもが主体的に意欲をもって生活や遊びを楽しもうとする姿であり、【みんなも大事】のみんなは、保護者、保育者、友だちはもちろん、地域や自分にかかわる身近な“ひと・もの・こと”と捉え、かかわりをもってもらったり、自ら広げようとしたりする中での子どもの姿と考える。

子ども、保護者、保育者が“ほっと安心”し、“笑顔いっぱい”になるこども園をめざし、下記のように研究テーマを設定した。

【研究テーマ】 みんなでつくろう ほっと安心 笑顔いっぱいのこども園  
～自分も大事 みんなも大事～





## （２）１年次の研究成果と園の実態と課題について

１年次、『ほっと安心 笑顔いっぱいのかども園』をめざして『保育者のかかわり』と『環境構成』について視点を当て研究を進めてきた。成果として、『保育者のかかわり』では、保育者との信頼関係（ほっと安心）を基盤に置き、子どもが今何を楽しんでいるのか、何を感じているのかを見取ることで、寄り添うべきか、見守るべきか、声をかけるべきか、保育者のかかわり方を考える手立てとしてきた。そうすることで、子どもが主体的に活動できるようになり、“もっとやりたい（笑顔いっぱい）”の意欲につながるようになった。

『環境構成』では、子どもが主体的にかかわりたくなる環境とは何かを考え合ったり、子どものやりたいことが実現できる環境の工夫や再構成をしたりしてきた。そうすることで、遊びをより楽しんだり、違う遊び方を考えようとしたりする姿につながる事が分かり、子どもの姿とともに発達過程を踏まえながら環境を整えることが大切だと確認できた。また、生活や遊びの中で、実体験・経験を積み重ねられるようにすること、それらを繰り返す中で子どもたちの自信になり、意欲が高まる事が、“ほっと安心・笑顔いっぱい”の姿につながると分かった。

（園の実態と課題について）

- ・新しい環境での生活の戸惑いや不安があったり、一人ひとりの子どもの経験の差が多く見られたりする。誰もが安心して園生活を送り、基本的な生活習慣を身につけたり、主体的な遊びを通して、多様な経験をしたりすることで、学びや育ちを豊かにする。
- ・保育者間の話し合いの時間がとれず、場をもつことが難しい現状がある。保育者同士が話し合う時間や場がないと、十分な連携がとりにくくなっている。保育について相談しにくかったり悩みを共有できなかったりすることで、保育者の不安や心の余裕がなくなってしまう、楽しい教育・保育実践にも影響するのではないかと感じている。様々な立場の保育者と語り合う機会をもつことや、効率よく話し合える時間の確保や場をつくる必要がある。
- ・異年齢児とかかわることで、色々な遊びに興味を示し真似ようとしたり、一緒に遊んだり

する姿が見られた。また、近隣の施設や学校、農園など地域とのかかわりが増えたことで、自分から積極的に挨拶をしたり、感謝の気持ちを伝えたりする姿につながった。しかし、散歩に行った時や保育室の前を通ったタイミングだったり、行事の取り組みを見に行ったりなど、偶発的な交流が多い。学びや育ちをより意識し、計画的に実施していくことも必要である。

- ・保護者との連携や支援については、子育ての不安や戸惑いなどの相談に対して、日々寄り添ったり、様々な方法で子どもの成長を伝えたりしてきたが、成長の過程についての発信が少なかったと感じる。子どもの行動の“できた”“できない”ばかりに注目するのではなく、結果に至るまでの過程が大事であり、その中に学びや育ちがあることに気づいてもらえるような発信をし、子育てへの安心や自信につながっていくようサポートする必要がある。

### （3）課題解決に向けての方向性

- ・子どもの学びや育ちにつながる環境構成や援助について保育者間で連携・検討を深め、積極的に教材研究を行う。また、子どもが何に興味をもち、何を求めているのかを見取りながら、子ども理解を深め、それにもとづいた環境を整える。そして、一人ひとりが適切な環境の中で、主体性を十分発揮できるようにしていく。
- ・担当学年だけを見るのではなく、前後の学年、さらには0～5歳児までの発達の連続性を意識していく。そうすることで生活や遊びにつながり、心も安定し、発達が積み重なると考える。
- ・保育者は多様な考えを受け入れたり、自分の考えや思いを伝えたりしながら保育の楽しさを共有することで、保育者のアップデートとともに、さらなる同僚性の高まりにつなげていく。職員同士が語り合う場や時間を計画的につくる。
- ・交流のねらいを明確にし、計画的に実施することで、充実した交流になるように、異年齢や地域の人など、様々な人とかかわる機会をつくる。
- ・子どもが生活や遊びを通して、色々な学び、育ちにつながっていることをクラスノートやポートフォリオ、個人懇談会などを活用し、分かりやすく発信していく。
- ・調理員や栄養士、看護師の専門性を活かしながら食育活動や保健指導を行い、教育・保育の中で子どもの経験知を豊かにすることで、学びや育ちにもつなげていく。

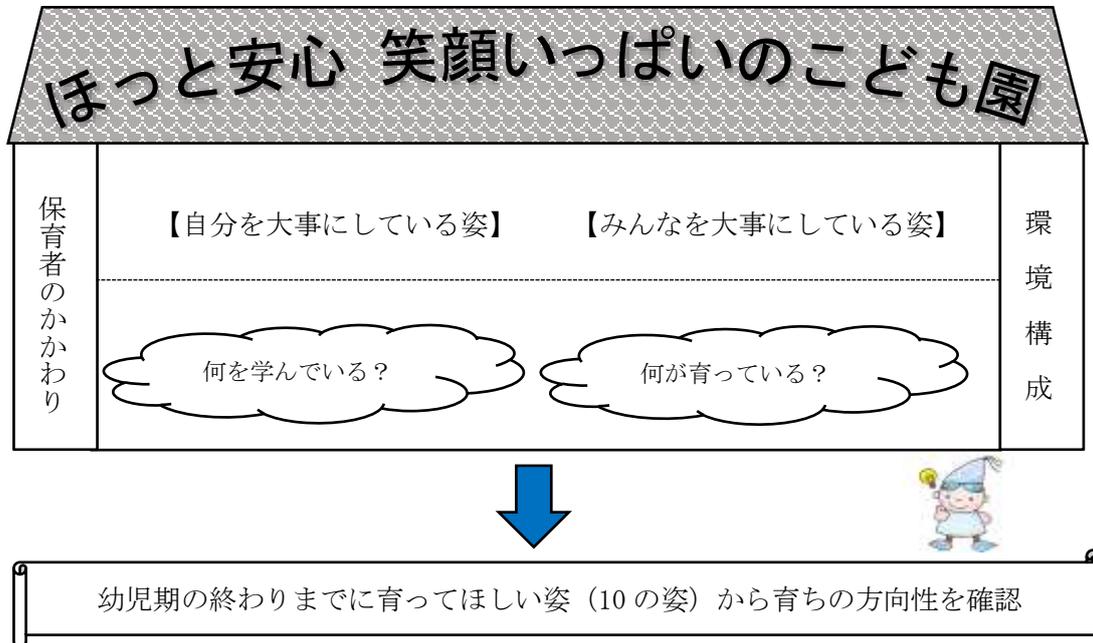
1年次の研究成果からの学びや気づきを活かし、上記のことを職員間で共有した。2年次は、目の前の子どもの興味・関心を見取り、発達に応じた環境を整えるために工夫する力を身につけ、子どもの学びや育ちを明確にしていきたい。

### （4）2年次の研究の視点について

保育者が子どもを肯定的に見取り、【自分も大事】【みんなも大事】にしている姿を具体的に捉え、どのような環境を整えていくか、保育者の援助やかかわり方はどうしていくかを探っていく。また、そこから見える【学びや育ち】がどこに見られたのか、どうつながったのかを明らかにしていくことにした。さらに、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）』から、子どもの育ちの方向性も確認し、小学校教育との接続を意識する手立てにしてい

くことにした。

日々の保育実践を、上記の視点で捉えながら、研究テーマの“みんなでつくろう ほっと安心 笑顔いっぱいのこども園”に迫る研究を進めていく。



## 2. 研究方法

### (1) 園内研究会

討議の柱を全学年で統一し、『自分も大事 みんなも大事にしている子どもの姿から見取れる学びや育ちとは』とした。参加者の多様な意見から、環境の再構成のヒントにしたり、保育者の援助を見直したりして、日々の保育実践へつなげていく。

### (2) 事例研究会

保育の一場面から、【自分も大事】【みんなも大事】の視点で討議し、どのような【学びや育ち】があったかを考えていく。様々な見方や考え方を知り、【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】の項目とつなげることで、子どもの学びや育ちの方向性を確認する。それを、日々の保育へと活かし保育の質の向上につなげる。

### (3) 園内学習会

保育内容の充実や子ども理解を深めること、保育者の専門性や同僚性を高めることをねらいとし、計画的に行う。また、園内研究会、事例研究会での学びや課題について、保育者間で共通理解を図ったり、日々の保育や行事などを振り返ったりする機会とする。

### (4) 事前打ち合わせ・保育指導案検討会議

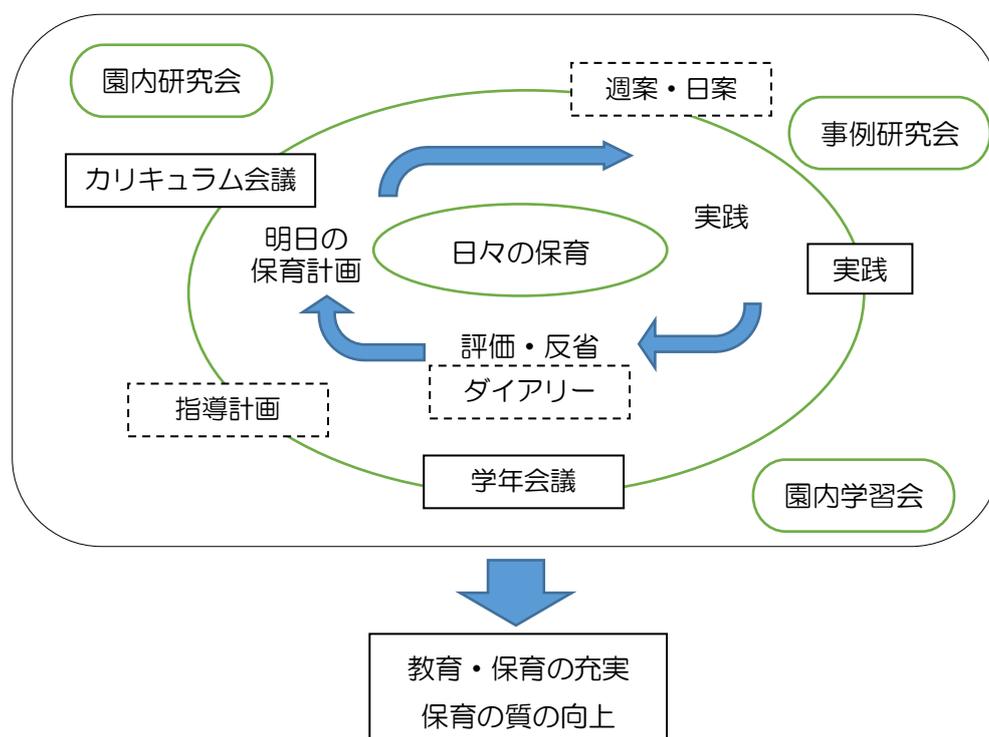
公開保育をするにあたり、担任の思いや願い、クラスの課題、どのような思いで保育を展開させていくかについて聞き取るために、担任と園長、副園長、主幹保育教諭で、事前に打

ち合わせをする。その後、保育指導案を作成し、園内研究会に参加する保育者と、保育指導案について検討を行う。

### (5) 学年会議

学年全員が参加できる学年会議を月に1回、カリキュラム会議の2週間前にもち、子どもの姿や今後の保育について共有し、カリキュラムを充実させていく。また、子どもの姿を語り合う中で、嬉しかった話を共感したり、悩みを解決したりすることで、保育者の“ほっと安心 笑顔いっぱい”にもつなげていく。

#### <研究サイクルのイメージ図>



保育者は、子どもの姿や育てたい姿から、日々のねらいを明確にし、環境を整えたり、計画し見通しをもったりする。その後、見取った子どもの姿をダイアリーに記録し評価するというサイクルで、教育・保育実践を行う。

園内研究会や事例研究会では、討議の柱をもとに討議をし、実践につなげる。

園内学習会では、保育の充実、子ども理解についての学びを深めていく。

これらを繰り返すことで、今の子どもたちに必要なことは何か、子どもの立場に立って考える力がつき、教育・保育の充実とともに、保育者自身の質の向上（保育者のアップデート）へつながっていくと考える。

### 3. 研究実績一覧

#### (1) 園内研究会

日付	学年	討議の柱
5/31 (金)	4歳児・5歳児	自分も大事、みんなも大事にしている子どもの姿から見取れる学びや育ちとは
7/11 (木)	0歳児・2歳児	
10/21 (月)	1歳児・3歳児	
1/30 (木)	全学年	

※指導講評・講演 常磐会短期大学 非常勤講師 藤原 範子さん

#### (2) 事例研究会

日付	学年	討議の柱
6/11 (火)	2歳児・3歳児	自分も大事、みんなも大事にしている子どもの姿から見取れる学びや育ちとは
7/29 (月)	1歳児・4歳児	
9/12 (木)	0歳児・5歳児	

#### (3) 園内学習会

日付	内 容
4/23 (火)	【自分も大事】【みんなも大事】の姿を語り合おう
5/28 (火)	グループワーク『エピソードから子どもの姿を見取り、 学びや育ちを考えよう ～ダイアリーより～』
6/25 (火)	園内研究会・事例研究会の振り返り、学びから実践へ 冊子づくりについて グループワーク『指導的まなざし、人として信頼するまなざしって?』
7/30 (火)	園内研究会の振り返り、学びから実践へ グループワーク 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)をどう捉える?』
9/25 (水)	事例研究会の振り返り、学びから実践へ グループワーク『0～5歳児の生活・遊びの連続性を考えよう』
10/25 (金)	園内研究会の振り返り、学びから実践へ 『0～5歳児の生活・遊びの連続性』の振り返り
11/26 (火)	本発表に向けて グループワーク『保育者として自分自身を振り返ろう』
1/28 (火)	本発表の内容(パワーポイント)を共有しよう
2/21 (金)	園内研究会の振り返り、学びから実践へ
3/7 (金)	今年度の振り返りと来年度に向けて

## 第2章 各学年・専門職の取り組み



## 第2章 各学年・専門職の取り組み

### 1. 0歳児

#### 年度当初の子どもの姿

初めて保護者と離れて集団生活を送る中で、入園当初は場所見知りや人見知りで泣く姿が見られた。保育者に抱っこされることを嫌がる子ども、誰にでも抱っこを求める子どもなど不安を表現する方法は様々であった。また、泣きやんでも保育室の扉が開き出入りがあるたびに保護者を思い出し、不安になって泣くこともあり、なかなか落ち着かなかった。そのため、まずは保育者が安心できる存在となるよう、あたたかい言葉かけを意識しながらその時々を思いを汲み取って、一人ひとりの要求や思いに応答的にかかわるようにしてきた。



不安な中でも食べることが好きな子どもが多かったため、離乳食を食べさせてもらうことやミルクを飲ませてもらうことで空腹感が満たされ情緒が安定し、少しずつ笑顔が増え始め、愛着関係の一步となった。保育者と一緒にいることで安心し、保育者の存在を確認しながら、身近にある玩具に興味をもち始めたり、自分から遊ぼうとしたりする姿も見られた。

また、初めての玩具、ホール遊び、CDデッキから流れる音楽、手袋シアターなどにであった時は、不安な表情をしたり保育者にひっついてきたりしてくる子どもが多かった。警戒したり慎重になったりする子どもの姿を受けとめ、安心できる保育者と一緒に遊ぶことを通して、少しずつ興味をもてるようなかかわりを大事にしてきた。

#### どのような子どもに育ってほしいか、保育者の願い

入園当初に見られた様々なことを不安に思う姿から、どのような子どもに育って欲しいかを担任間で話し合ってきた。0歳児は、研究テーマの【自分も大事】【みんなも大事】の土台となる『自分を大切にする』時期だと考え、2つの思いを共有することにした。



1つは、『自分が大切にされているという経験を積み重ね、安心して過ごせる子ども』をめざす。そのために、担当制保育をベースに生理的欲求を満たし、1対1のあたたかなかかわりの中で、一人ひとりの要求や思いを丁寧に受けとめていくことを大切にしていく。そして保育者が安心できる存在となり、園生活を心地よく過ごせるようなかかわりをしていく。

2つめは、『様々な“ひと・もの・こと”に自分から見たり触れたりしながら、興味や関心をもつ子ども』をめざす。初めてのもの、こと、場所に警戒する子どもが多いことから、安心できる存在の保育者が楽しんで遊ぶ姿を見せて、怖いものではなく楽しいものだと感じられるようにすることをまずは大切にしていく。そして、新しいことを取り入れるタイミングや、一人ひとりの姿に合った方法で物との距離感を縮め「やってみようかな」と心が動いた瞬間を逃さずに、それらに向き合っていけるようなかかわりを心がけていく。また、様々な“ひと・もの・こと”にであう経験を積み重ねたり、親しみや楽しさを感じたりできるような環境を整えていきたい。

園内研究会・事例研究会を通して

◇園内研究会を通して分かったこと：7月

【自分を大事にしている姿】



あんしん♡



○保育者とのかかわり

不安な時、疲れた時、甘えたい時は  
大好きな保育者のもとへ行き、膝に座  
ったり抱っこをしてもらったりして  
安心する（愛着関係の築き）（安心感）

○体を動かして遊ぶ

システムブロックをハイハイで  
上ったり下りたりする

コンビカーを押して歩くことを  
楽しむ（体を動かす意欲）



楽しいからもう1回！

ばあ！



○保育者とのやりとり

大好きな保育者と1対1で『いないいないばあ』のやりとりを楽  
しむ（安心感）（愛着関係の築き）（見通し）

○何度も繰り返す

『楽しいな』と感じた遊びを繰り返す（やりたい意欲）

○思い思いに過ごす

安心できる場所で、安心できる保育者の見守りのもと、一人ひ  
とりが積み木、絵本、音の鳴る玩具などの遊びを楽しんだり、座  
ってゆったりと過ごしたりする

（情緒の安定）（安心の場の広がり）（選べる遊び）



おいしいな

○食事をする

安心できる保育者に見守られながら、大きな口を開けて意欲的  
に食べる（食べたい意欲）（満足感）（安心感）



【みんなを大事にしている姿】



○同じ遊びに集まる

保育者と友だちが楽しそうに、段ボールハウスで『いないいないばあ』のやりとりをして遊んでいることに気がつくと、その遊びが気になって同じように遊ぼうとする

(人への関心) (興味の広がり) (楽しさ) (安心の場所)

大丈夫かな？

○友だちを気にする

友だちの泣き声が聞こえると、「どうしたのだろう？」と気になり、近くに来て見守る(人への興味・関心)

○友だちとのかかわり

泣いている友だちに「どうぞ」と持っていた玩具を渡す

(人への興味・関心) (気づき) (思いやり)

どーじょ (どうぞ)



○物への興味

保育者が色水の入った袋に触ると、同じように触ってみて感触を味わってみようとする。また、慣れてくると持って歩いたりすることを楽しむ(感触を味わう) (物への興味)

何が始まるのかな？

○期待をもつ

CDデッキの用意をし始めると、保育者のそばに集まり、音楽が流れるのを楽しみに待っている

(見通し) (期待) (興味・関心)

おっ！



【学びや育ちについて】

- ・いつも繰り返される遊びや生活の流れと保育者の応答的なかわりが、安心につながった。
- ・保育者との愛着を確認しながら、身近な友だちへの興味や初めてである“ひと・もの・こと”に対する不安(警戒)が和らぐことで、『やってみようかな』という気持ちの芽生えになった。
- ・子どもの好きそうな遊び環境を整えることで、模倣や経験を積み重ねたり見通しをもって過ごしたりでき、繰り返し遊ぶことで楽しさや意欲になった。また、保育者に認められることで自信や満足感につながった。



幼児期の終わりまでに  
育てほしい姿



『健康な心と体』

◇事例研究会を通して分かったこと：9月

<事例シート>

タイトル：映ってる！！～自分もみんなも～		年齢：0歳児（ひよこ）	時期：5月上旬～
<p>保育室にある棚を、子どもたちがいつでも中に入れるスペースにしている。そこに入ることが楽しい子どもや落ち着く子どもがおり、人気のスペースとなっている。その中にはミラーシートが貼ってあり、そこに自分の顔が映ることに気づいた子どもたちである。</p>			
≪ 子どもの姿 や つぶやき ≫		≪ 保育者の見取り や 環境構成・援助 ≫	
棚の中に入り、鏡に映る自分の姿をじっと見つめている。		自分のことって分かっているのかな？	他の人が映ったらどうなるだろう？
ばあ！！		保育者も一緒に鏡遊びを楽しんでみる。	
鏡の中の自分に笑いかけたり、触れようとしていたりしている。		友だちが居ると、鏡が見えにくくなって嫌なのかな？	
鏡に保育者が映ると鏡の保育者と実物の保育者を交互に見たり、目が合うと嬉しそうに笑ったりしている。	あっ！（先生だ）	自分の全身を見たり、友だちも一緒に映ったりするように鏡の範囲を広げる。	
友だちが入ってくると怒ったり押ししたりしている。		友だちが一緒に中に入っても怒らなくなってきた。友だちにも興味が出てきたのかな？	
色々な角度から自分の姿を見ている。笑ったり、口を大きく開けたり鏡に向かって色々な表情を映している。		写真にも興味が出てきたのかな？	
友だちが鏡に映ると指差しするようになる。		いつでも近くで写真が見られるように一人ひとりの写真と鏡シートを貼ったアルバムをつくって置いておく。	
保育室に貼り出している誕生日写真やポर्टフォリオを見つけると、指差して保育者に知らせている。		友だちへの興味が湧くように「○○○○ちゃんだね」「○○くんどこかな」と名前を知らせていく。	
自分から手に取りアルバムを開いて見たり触ったりしている。月齢の高い子は、自分が映ったアルバムを選んで見たり、友だちの写真を指差して保育者に知らせたりしている。	あっ！（友だちいたよ）	友だちとのかわりも増えてきたな。	
んっ！（どうぞ）			
アルバムの写真に写る友だちが近くにいると、その友だちを指差したり、アルバムを渡しに行ったりしている。			
<b>【自分を大事にしている姿】</b>			
<b>【みんなも大事にしている姿】</b>			
<b>【学びと育ち】</b>			
<b>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</b>			
健康な心と体    自立心    協同性    道徳性・規範意識の芽生え    社会生活との関わり    思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重    数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚    言葉による伝え合い 豊かな感性と表現			

### 【自分を大事にしている姿】

- ・自分が映っていることに喜びやおもしろさを感じている（物への興味）
- ・保育者とのやりとりを楽しんでいる（大好きな人）
- ・棚の中の狭い空間に自分から入ろうとする（安心の場所）
- ・自分でアルバムを取りに行き、見ることを楽しんでいる（やってみようかな）
- ・写真を指差して、保育者に知らせようとする（伝えたい気持ちの芽生え）
- ・友だちが棚の中に入ることによって狭くなったり自分の姿が見えなくなったりするのが嫌で怒ったり押したりする（自我、自己表出）

### 【みんなを大事にしている姿】

- ・鏡の存在に気づき、見たり触れたりする（物とのであい、人への興味）
- ・鏡に大好きな保育者が映っていることを喜んだり、鏡越しのやりとりを楽しんだりしている（大好きな保育者の愛着確認）
- ・友だちと一緒に空間も楽しめるようになってきている（友だちへの関心）
- ・友だちに写真を指差しして、映っていることを知らせたりアルバムを渡したりしている（気持ちを伝えたい）

### 【学びや育ちについて】

- ・自分の顔のパーツや身体が動くのを試すことで、自己認識につながっている。
- ・自分と他者との区別が付き、友だちへの興味が膨らみ、友だちにかかわりたい気持ちが育っている。
- ・安心できる環境や保育者がいることが土台となり、好奇心や『やってみようかな』と思う気持ちが育っている。
- ・思いを様々な方法（表情、指差し、喃語など）で伝えようとする気持ちが、芽生えた。
- ・保育者にしてもらったことを友だちにもしてあげようとする気持ちが出てきた。



幼児期の終わりまでに  
育ってほしい姿



『健康な心と体』『思考力の芽生え』『豊かな感性と表現』

### 保育者の気づきや学び

- ・『やってみよう』と思う気持ち（好奇心）につなげるには、安心できる環境を用意し、安心感を得られるよう「見ているよ」と視線を送ったり見守ったりすることが、大切であると分かった
- ・保育者が子ども一人ひとりの表情や仕草を見逃さず応答的にかかわることで、自分の思いを伝えようとする意欲が生まれると分かった
- ・保育者のかかわり方をモデルにして、人とのコミュニケーションの取り方を真似たり、繰り返ししたりすることを楽しみ、自分の経験を積み重ねていると分かった
- ・子どもは、物への興味をもつと、自ら触れたり親しんだりすることで、何かに気づく。そこに保育者がかかわることで、子どもの『やりたい』が発揮されていくと分かった
- ・興味をもって楽しめる環境が増えると、どこで遊ぶか、何で遊ぶかなど、自分で選んで遊ぼうとすることが分かった

## 総括

### <子どもの育ち>



### <保育者のアップデート>

- ・朝寝をする子ども、保育者と1対1で遊びを楽しむ子どもなど、それぞれの子どもの気持ちが満たされる空間の確保をし、一人ひとりが安心して過ごしているかを常に意識した環境づくりをしていく
- ・子どもに「見ているよ」という視線を送ったり、子どもの要求を察知して思いを汲み取ったりし、丁寧に応答的にかかわっていく
- ・繰り返して遊ぶ楽しさに共感したり、『やってみようかな』という心の動きを見逃さず、タイミングよく援助したりして、楽しい経験が積み重なっていくように保育者のかかわりや遊び環境を工夫していく

### <まとめ>

安心できる環境の中で、身体の成長とともに行動範囲の広がりや、身近な“ひと・もの・こと”に興味をもって親しんできた子どもたちの表情の変化を感じることができた。子どもの心の動きに寄り添った環境を整えることで、大好きな保育者に『見て見て！』『自分がしたい』という思いを様々な表現で伝えようとする気持ちが芽生えるようになってきた。

自分が大切にされる経験を積み重ねていくことで、友だちに対して一緒に遊びたいと笑顔を向けて誘ったり、泣いている友だちの頭を撫でて慰めるようなしぐさを見せたりと、心がほっとあたたかくなるようなかかわりをするようになってきている。これは、0歳児なりに人とかかわり方を知り、人に優しくしようとする心が育ってきているからだと感じている。

0歳児は【自分を大事】にする土台づくりの時期と再確認できた。これからも保育者が子どものモデルであるということ意識して丁寧に応答的なかかわり続け、子どもの育ちの支えとなるように努める。また、“ひと・もの・こと”にであう経験を増やす機会を意識的に設け、【みんなも大事】につながるよう保育者同士が連携し、環境を整えていきたい。

## 2. 1歳児

### 年度当初の子どもの姿



新入児は初めての場所、担任、保護者と離れる不安から泣く姿が多く見られた。また、家庭との生活リズムの違いや慣れない環境で、食事が進まなかったり、午睡時になかなか寝つけず、眠りが浅く泣き出したりする様子も見られた。進級児は4月当初は、新入児に遠慮していたのか頑張っていたのか、泣かずに過ごしていたが、新入児がクラスに慣れ始めると、登園時に泣いたり担任に甘えたりする姿も出てきた。子どもたちの不安な気持ちを受けとめ、担当保育者を中心にスキンシップをとりながら声をかけたり、子どもたちのペースで過ごせるようにしたりして、まずは“安心”できるように配慮した。また、どんな玩具や遊びが好きなのかを一人ひとりの姿から汲み取り、環境を整え、保育者も一緒に遊んだり活動したりすることで園が“楽しい場所”となるようにした。

今年度は、学年人数の半分が12月以降に生まれた子どもであったので月齢差が大きく、どのような環境が適切なのか、遊びや活動をどう進めていこうかなど、難しさを感じながらのスタートだった。活動に時差をつけたり、同じ遊びでも素材を何種類も用意したりして自分で好きな物を選ぶように工夫した。自分の好きな遊びが保障されることで、じっくり遊ぶ姿が増えて、園生活を楽しみに笑顔で登園するようになってきた。子どもが安心して過ごせるようになると、友だちへの関心を示す姿が見られ始めた。反面、目に入った物を取ってしまったり友だちを触ろうとして叩いてしまったりすることもある。同じ玩具を用意したり、かかわり方を示したりして、友だちに関心をもったことを活かせるようにしている。

### どのような子どもに育てほしいか、保育者の願い

『よく食べて、よく寝る、健康的な生活リズムで過ごせる子ども』をめざす。離乳食から幼児食になり、様々な食材に初めて触れる機会が増える。味覚や咀嚼・嚥下力が発達していく時期であるため発達状況に応じた援助を行い、食事の楽しさを感じられるようにしていく。睡眠においては、夜の入眠時間が遅くなってしまう子どももいるため、家庭と連携し、一人ひとりに応じた睡眠時間を確保しながら、午睡時間に安心して眠り、十分に体を休められるようにする。健康な心と体を育み、個々に応じた心地よい生活を送ることができるようしていく。



『愛着関係が築かれた環境で安心して過ごし、遊びや活動を楽しむ子ども』をめざす。初めて保護者から長時間離れて過ごす環境がこども園であることから、1対1のかかわりを大切にし、担当保育者が安心できる人・居場所・安全基地となれるように努めていく。家庭的な雰囲気や大事にしながら、自分の好きな遊びを選んだり、保育者と一緒に活動を楽しんだりできる環境を整えていく。また、子どもの姿に応じて環境を再構成したり、発達段階に即した新しい遊びにも挑戦したりできるようにしていく。

『生活や遊びの中で、体を十分に動かしたり、色々な物、ことに触れたりする中で、見たことや感じたことを自分なりに表現する子ども』をめざす。1歳児の発達を踏まえ、歩行の安定、言葉を獲得する時期であることから、発達を促す遊びを通して、今後の活動の幅を広げ、様々な経験をしたり、保育者や友だちとやりとりしたりすることを楽しめるようにしていく。

園内研究会・事例研究会を通して

◇園内研究会を通して分かったこと：10月

【自分を大事にしている姿】



この間を通るのがおもしろいな

〇〇ちゃん  
と一緒に！

〇何度も通る

引き車が2つのビールケースの間をちょうど通る狭さで、そこを通ることにおもしろさを感じ、何度も通っていた

(繰り返す)(楽しさ)(感覚・見通し)

〇友だちの真似をする

友だちのしていることを見て、同じ道具(引き車やスコップなど)を自分も用意し、真似をして遊ぶ姿が見られた

(真似る)(人への興味・関心)(一緒に楽しい)

〇転がす、振る、鳴らす

どんぐりの入ったカプセルを転がしてみたり、容器を振ってカラカラと音が鳴ることを耳の近くで確認しながら鳴らしてみたり、様々な遊び方をしていた

(物への興味の広がり)(転がる楽しさ)



ころころ〜

みて〜！



〇見てほしい！

砂遊びでつくったアイスクリームや型抜きができると、保育者に見てほしくて、持って行ったり、「みて〜」と言葉で伝えたりする姿があった(意欲)(伝えたい気持ち)

これもアイスクリームみたい

ここに挿して…

〇繰り返し楽しむ

ビールケースの穴にアイスのコーンを差すことで、両手を使って遊びやすく、何度も砂を入れたり出したり、保育者に見せたりしていた

(手先の器用性)(道具を使う)(意欲)(同じ場を共有)



○トラブルが起きてても…

友だちへの興味が出てくることで、おもちゃを取ってしまう（取られてしまう）が増え、遊びが終わることも多い。アイスクリームが崩れてしまったが、保育者の「食べられちゃったね」という言葉がけによって、葛藤しながらも、また、アイスクリームづくりを続ける姿が見られた（葛藤）（気持ちを立て直す）

アイスクリームくずれちゃった…  
でももう一回つくろうかな



ダンゴムシいた！  
でも、触るのは…



ここに入れる？

○保育者と一緒に

ダンゴムシ探しがしたいことを伝えようと、保育者にスコップを見せてアピールしてきた。大好きな保育者と一緒に遊ぶ安心感の中で、虫などの自然物への興味が広がってきている（自然とのかかわり）（興味）（好奇心）

○友だちに “どうぞ”

保育者とダンゴムシを探していたR児が、見つけたダンゴムシを手で触ることに躊躇していると、近くにいたY児が、ペットボトル容器を持ってくる姿があった（人への関心の広がり）（思いやり）

### 【学びや育ちについて】

- ・ 保育者との信頼関係が築かれ、安心して過ごし、やりたいことを見つけて意欲的に遊べるようになってきた。
- ・ 大好きな保育者を遊びのモデルとして真似をすることで、遊びの興味が広がってきている。また、何度も遊べる環境があることで、繰り返し遊んだり、自分のしていることを周りの人に伝えようとしたりする姿が見られるようになった。
- ・ 友だちへの興味が出てくるとトラブルが起き、遊びが終わってしまうこともあるが、保育者の言葉がけによって気持ちを切り替え、再び、遊びに戻る姿も少しずつ見られるようになってきた。
- ・ 保育者のさりげない援助や、子どもの姿に合わせて遊びの環境を変化させたり工夫したりすることで、自ら遊び出す姿が増えてきている。
- ・ 自分を大事にしてもらっている経験から、みんな（人や物、生き物などを含めた様々な環境）に関心を持ち、親しもうとするようになってきている。

幼児期の終わりまでに  
育ってほしい姿



『健康な心と体』

◇事例研究会を通して分かったこと：7月

<事例シート>

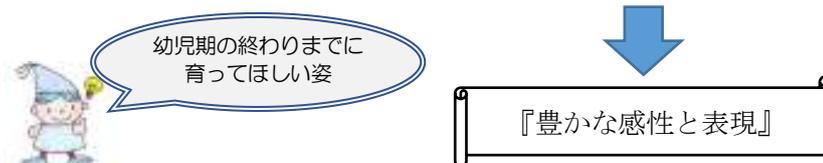
タイトル：「ゴーゴー」乗り物大好き！	年齢：1歳児（うさぎ）	時期：5月上旬～
<p>乗り物が大好きで、情緒が不安定な子どもたちも“♪バスに乗って”の曲が流れると、気持ちが切り替わり楽しむ姿が見られる。様々な形の乗り物を用意することで自分の乗りたい物を選び遊んだり、様々な遊び方を生み出したりしている子どもたち。大好きな乗り物を通して、遊びを楽しんだり、友だちの遊びに興味をもったりする姿が見られた事例である。</p>		
<p>《 子どもの姿 や つぶやき 》</p>		<p>《 保育者の見取り や 環境構成・援助 》</p>
<p>車やバスに見立てた長椅子を引っ張り出し、バスごっこを始める。</p>		<p>“♪バスに乗って”が流れるとみんなが集まってくるな</p>
<p>準備しよー</p>	<p>準備しよー</p>	<p>子どもと触れ合いながら一緒に楽しむ。</p>
<p>乗り物をつなぎ合わせ乗り物をつくる。</p>		<p>色々な種類の乗り物を用意する。</p>
<p>乗っていいよー</p>	<p>乗っていいよー</p>	<p>友だちと一緒にしたいと思っているのかな。</p>
<p>乗り物同士をくっつけたり、動かしたりして遊んでいる。</p>		<p>トンネルに車を通したいのかな</p>
<p>くっついた</p>		<p>トンネルに車を通したいのかな</p>
<p>以前からよく通っていたトンネルに車を入れて遊び始めた。</p>		<p>家を広い場所に移動する。</p>
<p>ぼくも</p>		<p>散歩や家で、近鉄電車を見に行った経験が遊びにつながっている子どももいるのかな。</p>
<p>トンネル通りまーす</p>		<p>室内での扱いやすさと安全面を配慮し、新聞紙のフープを用意する。</p>
<p>電車電車電車っしゅー</p>		<p>イメージが共有できるように電車の写真を掲示する。</p>
<p>ひととりー</p>		<p>自分も一緒にしたいから連れて行ってほしいのかな</p>
<p>A児（ハイハイ）が、フープに入り、友だちが遊んでいる姿を指で示す。</p>		<p>A児を支え一緒に遊びに参加する。</p>
<p>【自分を大事にしている姿】</p> <p>【みんなも大事にしている姿】</p> <p>【学びと育ち】</p> <p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え          自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い          豊かな感性と表現</p>		

### 【自分を大事にしている姿】

- ・安心できる場所があり、大好きな保育者や友だちの存在を心地よいと感じ、安定した気持ちで過ごしている（情緒の安定）（安心感）
- ・自分の好きな乗り物がある、馴染みのある曲がかかると嬉しそうにするなど、思いを受けとめてもらえることで落ち着いて遊んでいる（自分が満足）
- ・“好きな曲をかけてほしい！”“トンネルに車を通したい”“室内での好きな遊びが戸外でもしたい”の思いが実現され、満足して遊んでいる（やりたいの実現）
- ・自分もやりたいと手振り身振りで伝えたり、「あっちー」と指差しをして行きたい場所を知らせたりする（意思表示）

### 【みんなを大事にしている姿】

- ・友だちと一緒にバスに乗ったり、乗り物を連結したりするなど、同じイメージをもって遊んでいる（遊びの共有）
- ・大好きな乗り物遊びを通して、友だちと同じことがしたい（真似っこが楽しい・おもしろいなど）
- ・仲間意識が生まれ、友だちも一緒に遊ぶと楽しいと感じられるようになっている（人とのかかわり）
- ・色々な物とのあいや経験が遊びにつながり、周りの友だちへ広がっている（身近な経験からの興味の広がり）



### 【学びや育ちについて】

- ・大好きな保育者が受けとめてくれるという安心感から、“やってみたい！”という意欲が生まれ、自分の気持ちを仕草や表情、身振り、喃語で伝えられるようになってきた。
- ・素材や質感など違った種類や人数に応じた数の玩具を用意することで、自分の遊びが確保され、じっくり遊んだり、色々試し満足するまで楽しんだりしている。
- ・友だちと同じことをして、“楽しい”“おもしろい”“嬉しい”と感じ、友だちを意識することにつながっている。
- ・月齢差が大きい中、大好きな遊びを通して、イメージを共有し、友だちと一緒に遊ぶ楽しさが感じられるようになってきた。

### 保育者の気づきや学び

- ・自分が大事にされているという安心感が土台となり、やってみようという意欲や、思いが実現した満足感が生まれ、友だちや周りの環境に興味をもち、みんなも大事につながっていくことが分かった
- ・初めて経験することに対して、信頼できる保育者の援助や言葉かけが子どもたちにとって、心の支えとなり、重要であると分かった
- ・子どもがじっくり遊ぶためには、子どもの姿を肯定的に見取った環境づくりが大切であることが分かった

## 総括

### <子どもの育ち>



### <保育者のアップデート>

- ・子どもが『したい』『したくない』など自分の思いを出すことを認め、できる限り実現させ、主体的に過ごせるような環境を整える
- ・子どもの姿を見取り、保育者も一緒に遊んだり盛り上げたりする一方で、じっくり遊ぶ子どもを見守ったりさりげない援助をしたりするなど、個々に応じたかかわりをする
- ・1歳児の保育では、月齢差が大きく影響することを理解して、玩具の種類や安全面などの物的環境、保育者や友だちとのかかわりなどの人的環境などを整える

### <まとめ>

1歳児は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の『健康な心と体』とのつながりが大きいことが分かった。特定の大人との愛着関係を築いて安心して過ごすことで情緒が安定し、健康的な生活リズムで過ごせることも深いつながりがある。子どもの家庭背景も考慮しながら、保育者自身も余裕をもって、ゆったりとかかわることが重要であると感じた。

保育者と関係が築けると、安心して保育者から離れ探索活動をするようになり、好きな遊びを見つけるきっかけとなった。【自分も大事】が満たされていくと、友だちや生き物に関心を持ち始め、探索活動の幅が広がることも分かった。友だちとかかわりたいが、自我が優位なため、思うようにいかないことも多い。子どもの心の葛藤にも寄り添い、“ひと・もの・こと”とかかわることが楽しいと感じられるように援助していきたい。今後も、色々な経験を通して、【みんなも大事】につながっていく子どもたちの姿もめざしていきたい。

### 3. 2歳児

#### 年度当初の子どもの姿

進級当初は新しい環境に不安を感じる姿があったが、進級児は1歳児からの積み重ねから比較的早く落ち着いて過ごせるようになった。新入児も保育経験がある子どもが多かったため数日は泣いていたが、すぐに好きな玩具を使って遊び始め、慣れて落ち着いた。まだまだ自分の思いを表現することは難しく、泣くことで訴える子どもも多くいる。

生活に慣れてくると「自分で！自分で！」と言い、簡単な身の回りのことをしようとする姿が見られるようになってきた。特に、食事面では意欲的に自分で食べる子どもが多く、食事が楽しい時間になっている。その反面、好き嫌いが出てきたり、見た目で食べることを嫌がったりする子どももいる。

遊びの中では乗り物(電車、車)が好きな子どもが多く、色々な所を走らせて楽しんでいる。ブロック、パズルにも興味をもち、ひも通しやぽとん落としなど手先を使った遊びにも集中する姿が見られる。園庭では、車に乗ったり、滑り台や鉄棒のぶら下がりをしたりして、体を動かすことを楽しんでいる。また、ダンゴムシやミミズ探しを楽しみ捕まえ、見たり、触れたりすることを通して興味・関心が広がってきている。

一人でゆっくりと好きな玩具で遊びたい子どもや、友だちがしている遊びに興味をもち、真似する子どもの姿がある。しかし、思いの違いから玩具の取り合いや手が出てしまうなどのトラブルになることもある。



#### どのような子どもに育ってほしいか、保育者の願い

不安を感じる子どもの姿からまずは、『園生活を安心して過ごし、保育者や友だちと一緒に好きな遊びを楽しめる子ども』をめざす。毎日同じ生活の流れで過ごすことを意識し、安心の場所、心地よい雰囲気を感じられるようにしていく。好きなことを存分に楽しめるように、子ども一人ひとりがどんな遊びが好きなのかをしっかりと見取り、子どもの様子に合わせて環境を整えていく。そして色々なことを経験する中で、保育者や友だちと一緒にしかかわる楽しさも味わって欲しいと願っている。

2つめとして、『自分の思いを簡単な言葉や身振り手振りで伝えたり、気持ちに折り合いをつけたりできる子ども』をめざす。イヤイヤ期で自己主張も激しくなる時期や、心や言葉の成長期であることを踏まえるとともに、一人ひとりの思いに寄り添ったり丁寧にかかわったりできるように、担任間で連携し、よりよい援助につなげていく。

3つめは、『色々なことに興味をもち、意欲をもって遊べる子ども』をめざす。生活や遊びの中で、子どもたちが自ら「これがしたい」「自分でやりたい」という思いをできる限り実現させることで、興味を広げていく。発達段階に応じた環境を整えることで、自分でできた自信や意欲にもつなげていく。また、身近な動植物にたくさん触れて遊ぶ経験を通して、それらを大切に思ったりかかわり方を考えたりできるような環境もつくっていきたい。



園内研究会・事例研究会を通して

◇園内研究会を通して分かったこと：7月

【自分を大事にしている姿】



○自分で選べる

室内かテラスか自分の好きな場所を選んで遊んでいる  
(場の選択) (自己決定)

水いっぱい入るかな？

どうなるのかな？

○やってみよう!!

自分で使いたい容器を選んだり、水を入れたりして考えながら遊んでいる  
(意欲) (集中力) (好奇心)



これに入れるー！

集めてるねん

すごいでしょ！



先生！見て！

これ見て見て！



先生！見て！

○ねえ！見て！

自分の遊びを「見て」と保育者に伝えている  
(伝えたい意欲) (表現する喜び)

○色が変わったよ！

水の色の変化に気づき知らせている  
(気づき) (共感)

### 【みんなを大事にしている姿】

やってみよう

いっしょにしよう



おもしろいな

○友だちと一緒に  
遊びの中に自然と友だちが入り、楽しさを共有している  
(人とかかわり) (興味・関心) (感触・感覚)

あかいろやな

なんかおもしろそう

のせてみる

○まねっこ楽しいな  
友だちや保育者と同じ空間での平行遊びから、一緒に遊び始めている  
(人とのつながり) (イメージの広がり)



うんてんするわ

### 【学びや育ちについて】

- ・一人でじっくりと遊べる環境があることで、自分のしたいことに向かって考えたり、遊び始めたりできた。その経験が、“またやってみたい” “楽しい” と思う遊びに対する意欲につながっている。
- ・安心できる場や保育者がいる中で、興味が広がり色々な物を使って遊び込んだり、苦手なことも少しずつやってみようとしたりする姿になっている。
- ・保育者とのやりとりや保育者を介した友だちとのやりとりを楽しみながら遊ぶことで、友だちと遊びたい気持ちや友だちを大切にしようとする姿が育っている。
- ・保育者が遊びを通して子どもの思いを繰り返し受け入れたり、発見に共感したりしながらしたい遊びを実現していくことで、意欲的、継続的に遊ぶ姿や自己肯定感につながった。

幼児期の終わりまでに  
育てほしい姿



『豊かな感性と表現』『自立心』

◇事例研究会を通して分かったこと：5月

<事例シート>

タイトル：どうぶつえんできた	年齢：2歳児（ぞう）	時期：5月中旬～
<p>A児は遊びがなかなか見つけられず、棚の上に玩具を置く姿が見られていた。ロッカーの上に線路に見立てたシールを貼ったり、ロッカー横にボール転がしを設置したりすると、電車を走らせて遊ぶ姿が見られるようになった。同じ棚の向かい側で他児が遊びを楽しんでいる姿があり、棚の中も片付ける場所ではなく、子どもの遊びの場所になることに気づいた事例である。</p>		
<p>≪ 子どもの姿 や つぶやき ≫ ≪ 保育者の見取り や 環境構成・援助 ≫</p>		
<p>ここはどうぶつえんです</p> <p>たまたま中身が空っぽになっているところに、ブロックでつくった物を入れ「どうぶつえん」とつぶやいたことに反応して、周りにいた子どもも次々と持っていたブロックを入れていった。</p>		<p>ロッカーを使っておもしろいことがはじまった！どうなるのか見守ってみることにした。</p> <p>子どもたちのやり取りを見守り、「これは何？」など質問しながら子どもたちのイメージが膨らんでいくようにした。</p>
<p>それ何なん？</p> <p>これも入れていい？</p>		<p>まだまだ貸し借りも難しく“自分の！”という姿が多く見られるのでたくさんのブロックや動物を用意し、十分に使って遊べるようにした。</p>
<p>それぞれがつくった物や手にしていた物をひとつの空間に置きながら、動物園ができた。それ以降も「どうぶつえんしよう」「こうえんつくろう」と棚の中のおもちゃの箱を自分で出して、友だちを誘い遊ぶ姿がある。</p>		<p>自分のつくった物を大切に作る姿、友だちのつくっている物を認める姿が見られるようになってきている。また、「あかん」や「やめて」など自分の思いを伝える姿も多い。</p> <p>「〇〇くんはこうしたかったんじゃない？」と気持ちの代弁をしながら仲立ちを行い、かかわって遊んでいけるように見守る。</p>
<p>一緒やな！</p>		<p>友だちにも思いがあることを少しずつ感じているような姿も出てきている。</p>
<p>【自分を大事にしている姿】</p> <p>【みんなも大事にしている姿】</p> <p>【学びと育ち】</p> <p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え          自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い          豊かな感性と表現</p>		

### 【自分を大事にしている姿】

- ・「あかん」「やめて」など自分の思いを言うことができる（意思表示）
- ・自分のつくった物が、動物園の中の一つになる（充実感・達成感）
- ・ロッカーの中にブロックを入れて遊ぶ（したいことの実現・意欲）
- ・自分でやってみようと思ったことを実現する（意欲）
- ・イメージを言葉にし、実現しようとしている（経験・イメージ）
- ・実体験したことを再現しようとする（経験・イメージ）

### 【みんなを大事にしている姿】

- ・「これ入れてもいい？」と友だちに聞く姿がある（一緒に遊びたい・友だちを意識）
- ・友だちのつくった物を受け入れる（友だちを受け入れようとする気持ち）
- ・保育者の「こうしたかったんじゃない？」の言葉で友だちの思いを知ろうとする（思いの気づき）
- ・友だちと遊ぶ楽しさを味わい、友だちの物も大切にする（人・友だちへの興味）
- ・それぞれがつくった物が同じ空間に集まり、一つの遊びになる（個々からみんなへ）
- ・友だちと一緒にイメージを共有して遊ぶ（イメージの共有）

### 【学びや育ちについて】

- ・自分の思いを自分なりの表現で伝えようとする気持ちが出てきた。
- ・やりたいことができる環境で意欲的に遊ぶことで、充実感や達成感につながっている。
- ・友だちの姿ややっていることに興味・関心を持ち、同じことをしてみたいと感じたり、一緒に遊んでみたいと思ったりする気持ちが芽生えてきている。
- ・保育者の代弁から、友だちにも思いがあることに気づいている。
- ・自分の思いだけでなく、友だちの思いを受け入れながら、なんとなく同じイメージをもったり伝え合おうとしたりしながら遊ぶ姿が見られた。



幼児期の終わりまでに  
育てほしい姿

『豊かな感性と表現』『道徳性・規範意識の芽生え』

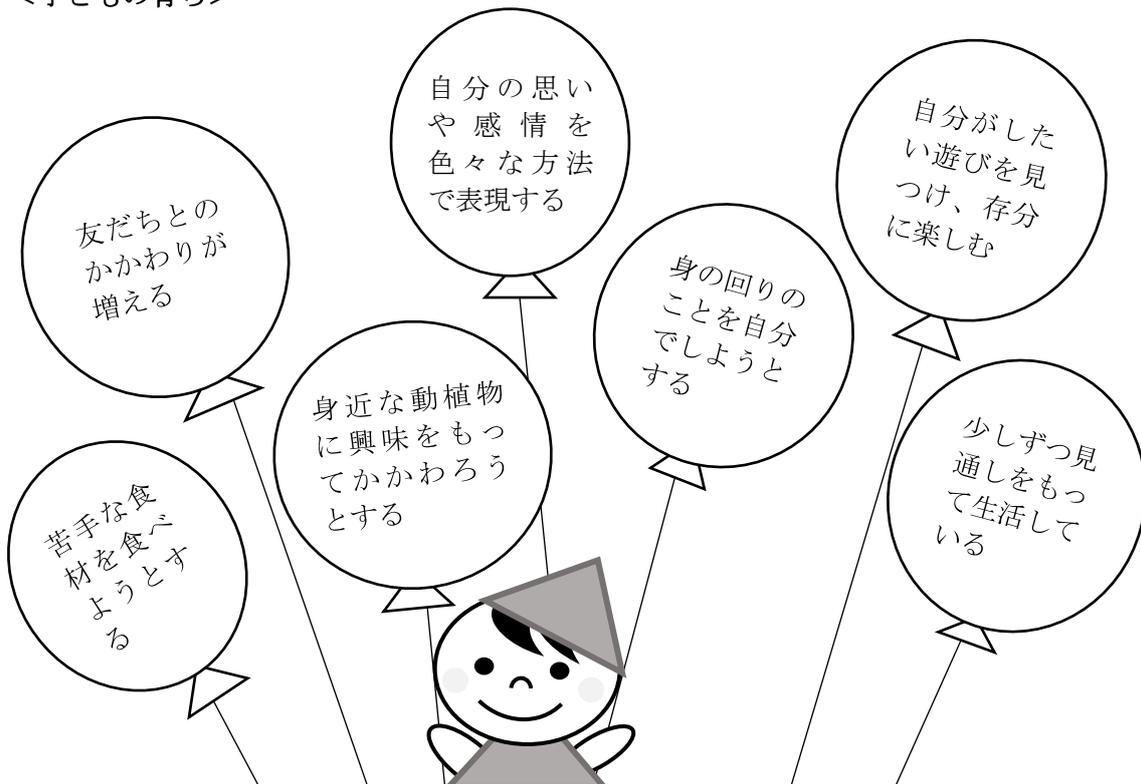


### 保育者の気づきや学び

- ・自分の思いを十分に発揮し、受けとめてもらうことで友だちにも目が向くようになり、友だちの思いに気づいたり受け入れたりする姿につながった
- ・保育者の肯定的な見取りやかかわりが、子どもの意欲につながっていき、“やってみよう”“遊んでみよう”とする主体的な姿になる。その姿が、【自分も大事】につながる事が分かった
- ・子どものつぶやきや興味に対して、保育者が絶妙なタイミングで声をかけたり、環境を用意したりすることで遊びが広がり、『楽しい気持ち』を自分なりの言葉や表現でも伝えようとする姿につながっていくことが分かった

## 総括

### <子どもの育ち>



### <保育者のアップデート>

- ・自分の好きな遊びが存分にできる環境をつくる
- ・一人ひとりに合わせた援助（遊び・食事・身の回りのこと）を意識する
- ・子どもの思いを受けとめ、自分の思いを伝えられる雰囲気をつくる
- ・遊びを通して友だちとのやりとりが広がるように、遊びの仲間になったり、盛り上げたり、必要に応じて仲立ちしたりする
- ・遊びや生活の中で、保育者がモデルとなり「かして」「まっけてね」など場面応じたやりとりができることで、遊びを楽しめるようにする
- ・見通しがもてるような言葉かけや視覚的援助をする

### <まとめ>

“自分でできた”という喜びや達成感の積み重ねにより、身の回りのことを自分でしようとする意欲的な姿につながった。これからも、子どもの姿やつぶやきからどんなことに興味・関心があるのかを探り、“やってみたくなる”環境を整え、子どもたちが保育者や友だちとかわりながら好きな遊びを楽しめるようにしていきたい。また、子どもの“伝えたい気持ち”を大事にしながらかけてきたことで、“伝えてよかった”“また、伝えてみよう”という気持ちが育ってきたと実感している。自分なりの表現で保育者や友だちに思いを伝えたり、相手の気持ちを受け入れたりできるような、保育者のあたたかいかわりも意識し、保育をしていきたい。

## 4. 3歳児

### 年度当初の子どもの姿

進級を喜び、新しい担任にスキンシップを求めたり、自己主張をしたりする反面、初めての集団生活や新しい集団に不安を感じる姿が見られた。大きな声で泣きながら登園する子どもや、緊張からあまり動かなかったり、突然お家の人のことを思い出して泣いたりして、様々な方法で自分を表現する子どもがいた。



保育者や場所に慣れてくると、戸外で伸び伸びと遊ぶようになり、保育室の環境にも興味を示し、じっくりと遊んだり新しいことにもやってみたりするようになっていった。また、気持ちが安定してくると、友だちがしている遊びに興味をもったり、泣いている友だちがいると気かけたり、保育者や友だちの名前を覚えて呼んだりするようになっていった。

生活面では、排泄時の援助が必要な子ども、食事に偏りやこだわりをもっている子ども、自分で食べようとしなかつたり、着替えさせてもらうことを待っていたりするなど手伝ってもらおうとする子どもの姿が見られた。一人ひとりの姿に寄り添い、1日の流れや物を置く場所を明確にし、自分の場所を覚えられるようにしたり、保育者と一緒に行動したりすることを大切にかかわってきた。少しずつ緊張がほぐれ自分を出せるようになり、今まで泣いていなかった子どもが泣く姿も見られた。また、自分の思いや欲求を伝えたくて大きな声を出したり、物を投げたりと行動で示す子どもや、したい遊びが分からずにじっとしていたりうろうろとよく動いたりする子どもの姿もあった。

### どのような子どもに育ってほしいか、保育者の願い

4月当初に見られた姿から不安や緊張を感じている気持ちを様々な方法で表現していると捉え、どのような子どもに育ってほしいかを考え、学年間で共有し実践していくことにした。

園庭のことを「公園」と呼び、「公園に行きたい」と保育者に伝え、戸外で遊ぶことで安定する姿が見られた。また、園庭の大型遊具やブロック、電車、絵本など目につく物に興味を示す姿があっ



たことから、まず、『自分から遊びを見つけて楽しむ子ども』をめざすとした。一人ひとりの様子に合わせて丁寧にかかわることで、子どもの興味・関心を見取り、目に留まりやすい環境を整え、自分の好きな遊びを見つけ、楽しめるようにしていく。

そして、『自分で身の回りのことをやってみようとする子ども』をめざす。生活の自立が子どもの自信につながると考え、自分のできることを自分で見つけられるようにしていく。

また、『自分なりの言葉や表現で伝える子ども』をめざす。子どもの姿をしっかりと受けとめ、気持ちに寄り添い、言葉や表情で伝えたり、友だちや保育者と一緒に遊んだりすることを通して、自分の思いを伝えたいくなるような環境も工夫していく。

園内研究会・事例研究会を通して

◇園内研究会を通して分かったこと:10月

【自分を大事にしている姿】



- なりきりたい！  
曲によって衣装を変えて踊る  
(自分なりの表現) (表現する喜び)
- 私って素敵！  
鏡に向かって踊る (自己肯定感)



- やりたい気持ち  
やりたい遊びを、満足いくまで集中して遊ぶ。何度も試してつくってみる  
(意欲) (試行錯誤)
- どれにしようかな  
使いたい素材や、必要な道具を自分で選ぶ (自己選択・自己決定)

団子をつくるねん



- 広がるイメージ  
イメージしてつくる。偶然できた物を見立てる (イメージの広がり) (見立て)



お寿司いただきます



ベビーカーで、おでかけしよう

- 経験が遊びへ  
赤ちゃんの世話をしたり、すし屋で食べた皿を重ねたりする  
(再現する) (やり取りを楽しむ) (見立てる)  
(人とのかかわり)

【みんなを大事にしている姿】

- 役割分担  
店員とお客さんなど、それぞれの役割を楽しみながら遊ぶ  
(人とのかかわりの広がり) (役割分担) (イメージの広がり)

いらっしやいませ！  
袋はありますか？

これください





○友だちの物への興味

友だちにつくり方を教えてもらい、同じ物をつくる  
(人とのかかわり) (興味の広がり) (道具を使う)

何つくるの？

○友だちと一緒に！

- ・気の合う友だちと一緒にダンスをする
- ・友だちが使っているアイテムと同じ物を探す
- ・友だちの思いに気づいてアイテムを渡す  
(共感・共有・イメージの広がり) (自己表現)

おそろいの衣装、嬉しいな



これ使う？

ありがとう

○あたたかいやりとり

- ・「次は〇〇しよう」と提案する
- ・友だちにも玩具を渡す
- ・自分の気持ちも大切にしつつ、友だちの気持ちも受け入れる  
(人とのつながり) (思いの共有) (言葉での伝えあい)

○先生、見て～！

つくった物を保育者に見せに行く  
(見せたい意欲) (安心感)



○物を大切に

使った物を、写真で示している場所に  
戻す (心地よい生活空間の維持)



【学びや育ちについて】

- ・満足いくまで遊んだ経験や楽しかったことを保育者に認めてもらう経験が、自己肯定感を育んでいく。
- ・じっくりと好きな遊びを楽しむ中で、遊び込む力や試行錯誤する力が育った。
- ・扱いやすい素材を使って遊び経験を積み重ねることによって自信をもち、イメージしてつくる力が育った。
- ・友だちの遊んでいる姿が見える環境が、友だちの遊びを大切にすることにつながっている。
- ・一緒に友だちとかかわって遊ぶ中で、相手の気持ちを汲み取っていると感じた。

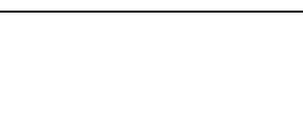
幼児期の終わりまでに  
育てほしい姿



『豊かな感性と表現』『協同性』

◇事例研究会を通して分かったこと：6月

<事例シート>

タイトル：病院ごっこ	年齢：3歳児（いちご）	時期：5月初旬～
<p>4月当初から、子ども同士で人形遊びや赤ちゃんごっこ、ねこちゃんごっこなどを楽しむ姿があった。A児が人形に「大丈夫ですか?!」「助けにきましたよ!」と言って遊び始めたことをきっかけに、他児も加わり、病院ごっこを楽しむ姿が見られ始めた。</p>		
<p>《 子どもの姿 や つぶやき 》</p>		<p>《 保育者の見取り や 環境構成・援助 》</p>
<p>ポンポン（お腹）みますね～ もう大丈夫ですよ</p>		<p>お医者さんになりきることを楽しんでいる</p>
<p>はじめは、一人ひとりが人形を相手に看病していたのが、保育者が病人となってみたことをきっかけに、子ども同士でやり取りをするようになった。</p>		<p>子どもたちがお医者さんになりきれるように、ナース服や聴診器を用意する。 医者になる、患者になる、したい役割があり、一人ひとりが楽しんでいる。</p>
<p>人が倒れています! 助けて～</p>	<p>薬塗りますね～</p>	<p>保育者や友だちとのやり取りを楽しめるように、子どもの発想（見立て）や姿から薬やパソコンなどのアイテムを用意したり、環境を整えたりする。</p>
<p>ブロックを薬や電話に見立てて遊ぶ姿が見られる。</p>		<p>「薬ぬりぬり」 「どこが痛い？」 言葉でのやり取りを楽しんでいる。</p>
<p>入院です!</p>	<p>泣かないで大丈夫よ</p>	<p>患者になったり、子どものやり取りをつなげたりすることで、遊びが盛り上がるようにする。</p>
<p>点滴しますね～ チクッとしますよ</p>	<p>手が痛いです</p>	<p>患者になったり、子どものやり取りをつなげたりすることで、遊びが盛り上がるようにする。</p>
<p>これは骨が割れていますね</p>		<p>患者になったり、子どものやり取りをつなげたりすることで、遊びが盛り上がるようにする。</p>
<p>病院ごっこを通して、一人遊びが中心だった子どもが遊びに入り、やりとりを楽しむ姿が増えてきた。</p>		<p>患者になったり、子どものやり取りをつなげたりすることで、遊びが盛り上がるようにする。</p>
<p>【自分を大事にしている姿】</p> <p>【みんなも大事にしている姿】</p> <p>【学びと育ち】</p> <p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p>		

### 【自分を大事にしている姿】

- ・自分がやりたい遊びをじっくりと楽しんでいる（興味・関心）
- ・自分なりのイメージを自由に表現する（自己表現）
- ・物的環境が揃ったことで役をイメージしやすくなり、よりなりきって遊ぶようになった（なりきって遊ぶ）
- ・保育者が患者になったことで、相手が人形から人になり変わり、保育者や友だちとのかかわりにつながった（やりとりを楽しむ）

### 【みんなを大事にしている姿】

- ・道具を交代で使ったり、人形を大切に扱ったりする姿が見られる（物とのかかわり）
- ・自分が病院で優しく、親切にしてもらったように、相手に接している（経験の再現）
- ・友だちと役になりきりながら、やりとりを楽しんでいる（人とのやりとり）
- ・みんなが経験していて、友だちとのイメージを共有しやすかったため、自然と役割分担ができ、遊びが盛り上がった（イメージの共有）
- ・やりとりの中で、相手の言葉や反応に気をとめる（友だちへの関心）

### 【学びや育ちについて】

- ・自分もやってみたいという気持ちが育っている。
- ・自分がしてもらった経験、受けた優しさが人とかかわりの中で活かされている。
- ・社会経験をもとに友だちとイメージを共有し、言葉で伝え合う力が育っている。
- ・ごっこ遊びを通して、人とかかわりや言葉でのやりとりの楽しさを感じている。
- ・身近な玩具をごっこ遊びの道具に見立てたり、身振り手振りを交えてよりリアルに表現したりと、様々な方法で豊かに表現する姿が見られるようになった。
- ・自分なりになりきって遊ぶことで、想像したり、表現したりしている。



幼児期の終わりまでに  
育てほしい姿

『言葉による伝え合い』『豊かな感性と表現』

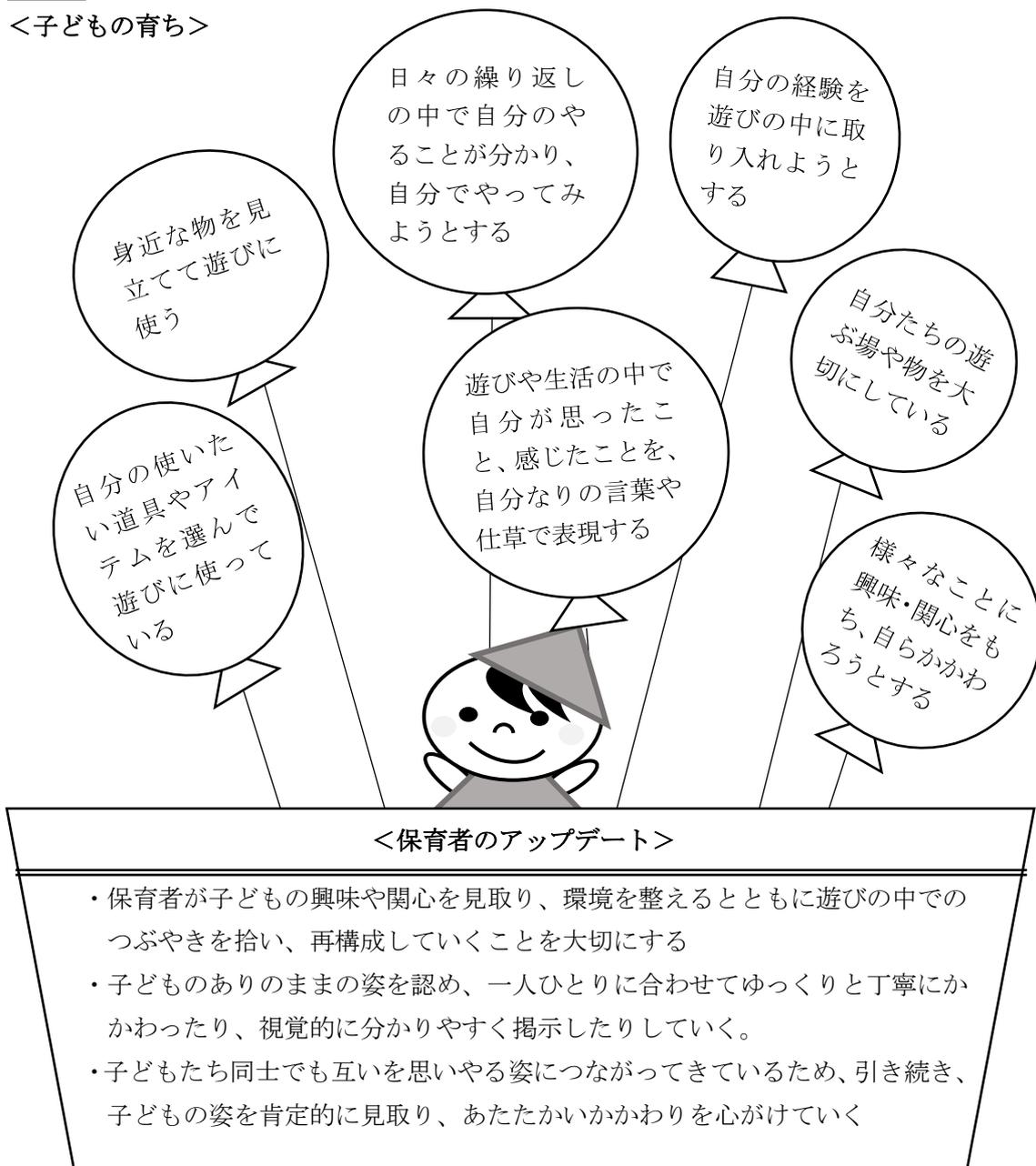


### 保育者の気づきや学び

- ・保育者の援助（遊びのモデルとなる、アイテムの準備など環境を整える）が大切であると分かった
- ・一人での人形遊びを十分に楽しんだことが、人とかかわって遊ぶことを楽しむ姿につながっている
- ・自分なりの言葉や身振りなどでなりきることを楽しみ、より表現が豊かになっていくことが分かった
- ・誰もが経験していることを遊びに取り入れ、自分なりに表現して遊ぶことで、他児の経験ともつながり、イメージを共有しやすく、遊びが盛り上がった

## 総括

### <子どもの育ち>



### <まとめ>

子どもの学びや育ちを支えるために、まず子どもの姿を見取り、発達に合った環境（扱いやすい、選べる、イメージしやすい）を子どもたちの目につくように準備したり、友だちと一緒に遊ぶことが楽しいと思えるようにかかわったりすることが大切だと分かった。学年会議では、保育の振り返りや子どもの姿を具体的に出し合うことで、ねらいや活動が明確になり、手立てや環境構成を具体的に考えることができた。また、教材研究や職員間の連携の大切さも再確認することができ、引き続き意識していきたい。子どもたちが、自分のしたい遊びを見つけ存分に楽しむことで、園生活を満喫したり思わず伝えたくなくなったりする姿につながる分かった。今後も、子どもが何を楽しみ、何を感じているのかを探り、保育者自身も楽しみながら、保育実践に努めていきたい。

## 5. 4歳児

### 年度当初の子どもの姿

3歳児の終わりから、4歳児の保育室に遊びに行ったり、過ごしたりしていたことで、進級に期待をもっていた子どもが多かった。2クラスとも担任がもち上がっており、保育者と過ごすことで安心する姿や様々な刺激を受けながら過ごしている姿があった。クラスの人数が増え集団が大きくなり、不安を感じる子どももいたが、一人ひとりのしたいことや興味のあることを提案すると、自ら遊び始められるようになってきた。



つくって遊ぶことを楽しむ子どもたちが多かったが、周りを気にせずに遊びの場を壊したり、素材や用具を雑に扱ったりする場面もあり、保育者の援助が必要なこともあった。一緒に遊びながら約束事を決めたり、素材や用具の使い方を知らせたりすることで、少しずつ落ち着いて遊ぶようになり、次第に友だちと遊びを楽しむ姿に変わっていった。友だちとかかわることで、優しい言葉がけやさりげなく助け合う姿が見られる一方、「叩いた」「取った」「嫌なこと言った」などのトラブルも増えた。また、相手の表情を伺ったり、困っていることや自分の思いを言えなかったりするなど、自信がもてない子どももいる。

### どのような子どもに育ててほしいか、保育者の願い

子どもたちの姿から、『したい遊びを楽しむためのルールや気持ちよく遊ぶ方法を知り、物を大切にできる気持ちをもてる子ども』をめざす。素材や道具は、みんなが使う物であることを知らせ、大切に扱えるように使いやすい長さの物を用意することで、少しずつ必要な長さや量を自分たちでも考えられるようにしていく。

『様々なことをやってみたいと思い、自分のしたい遊びを見つけじっくりと遊び込む子ども』をめざす。一人ひとりが自分の好きな遊びを十分に楽しめる場や時間を確保し、遊びが発展してさらに楽しさを感じられるように環境を整えることで「楽しそう!」「やってみたい!」という気持ちが湧き出るようにしていく。



『自分の思いを表現したり、気持ちを伝えたりして、保育者や友だちとかかわって遊ぶことを楽しめる子ども』をめざす。自分の気持ちをうまく伝えられなかったり、困っていることを言えなかったり、自分の思いを出すことに時間がかかる子どもも多いので、子どもたちのありのままの姿を受けとめ認めていくことで、自信につながっていく。また、やってみたい遊びを保育者や友だちと実現していく経験をたくさん重ねることで、自分から「もっとやってみたい」という気持ちが芽生えるように、何に興味をもっているのか、何を楽しんでいるのかを見取り、環境を整えたり声かけを工夫したりしていきたい。

◇園内研究会を通してわかったこと：5月

【自分を大事にしている姿】



はみ出さないように…  
できあがるのが  
楽しみだな♪

……

○一人でじっくり遊ぶ  
一人で絵を描くことに没頭している。一人である時間も楽しんでいる  
(集中力) (没頭) (自分なりの表現)

○自分なりのイメージをもって遊ぶ  
自分でコースを考えている  
(思考力) (好奇心・探求心)  
○自分が一番  
コースで遊んでいる友だちに点数をつける (遊びの仲間)  
つくった自分自身の点数を一番高くつけて満足している (自己満足)



これはトラップやねん



一緒にやりたい

ぼくが点数つけるよ!



自分ではがせて  
うれしいな

○一人ができる  
色々な色のビニールテープをたくさん貼り、カラフルなボールが完成し、喜んでいる (好奇心) (達成感)

ぼくのも見て欲しい!

こんなの  
つくったよ!

○友だちや保育者に認めて欲しい  
積極的に手をあげて、見て欲しい物をみんなの前で発表したい (自分なりの表現) (発信力)



【みんなを大事にしている姿】

何つくってるの？

落ちてるよ

ありがとう！




ぼくも  
つくりたい！

○友だちのしていることに気づく  
友だちがつくっている物に興味をもち、やってみようとしている（気づき）

○拾う  
落とした物を拾ってあげ、「ありがとう」とやりとりをしている  
（興味・関心）（意欲）（思いやり）

どうやっておるの？

ここは、こうやっておるよ！



○友だちを思いやる優しい気持ち  
自分の紙飛行機を折りながら、友だちにも折り方を教えてあげている  
（伝える力）（聞く力）（思いやり）

きれいに片づけよう！

落ちてるごみ、捨てたよー！

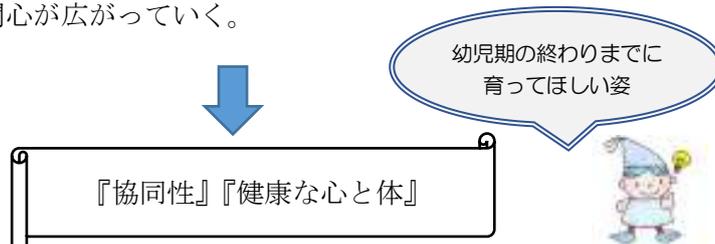



○物を大切にする  
自分で使った物は、次使いやすいようにもとの場所に片づける（物を大切にする）

○気づいて捨てる  
友だちが落としたごみや床に落ちているごみを拾う  
（自発性）（規範意識）

【学びや育ちについて】

- ・友だちのしていることに気づいたり、友だちと一緒に遊びを楽しんだりする中で思いやりや優しい気持ちが生まれてきている。そこから、ルールを守って遊んだり、協力したり、認め合ったりする姿につながっていくことが分かった。
- ・『やってみよう』という気持ちが芽生えることで、試したり考えてみたりする意欲につながると分かった。
- ・自分の好きな遊びをじっくりと楽しんだり、達成感や満足感を味わったりすることで、新しい遊びへの興味・関心が広がっていく。



◇事例研究会を通して分かったこと：7月

<事例シート>

タイトル：アイドルごっこ	年齢：4歳児（ひまわり）	時期：6月中旬～
<p>A児が自宅で顔にシールを貼って遊んでいるという話から数人でシールをつかっておしゃれごっこを始めた。シールの他にも、つけ爪や指輪、衣装などをつくったことで他の友だちも加わり、遊びが少しずつ変わり始めた。</p>		
<p>《 子どもの姿 や つぶやき 》</p>		<p>《 保育者の見取り や 環境構成・援助 》</p>
<p>キラキラの折り紙を顔に貼ろう</p>		<p>その場でつけておしまい。 遊びが継続しない</p>
<p>シールを売っているおしゃれ屋さんをしたい！</p>		<p>繰り返し使えるようにシールの台紙を用意してみる</p>
<p>ハートや丸の形に切ったキラキラの折り紙をシールにした物を机に並べお店にする</p>		<p>シールだけでは遊びが広がらない… 遊びが盛り下がり始める</p>
<p>可愛い色にしよう！ 雪の結晶ができたよ</p>		<p>プリキュアごっこしていた子どもに衣装づくりを提案してみる</p>
<p>つけ爪や指輪、リボンなどもつくり始める</p>		<p>遊びに使えるようなビニールテープやキラキラテープを準備しておく</p>
<p>マイクがあったら衣装を着て歌を歌える</p>		<p>遊んでいる子どもたちと一緒に、他に必要な物は何か相談する</p>
<p>歌う人が準備する場所が欲しい</p>		<p>自分でつくった物を自分の物と分かるように写真つきのクリップを用意すると繰り返し遊ぶ</p>
<p>ドキドキするね。 音楽かかるまでまってね</p>		<p>保育室の一部にカーテンをつけた舞台袖のような場所をつくる</p>
<p>数日後、衣装をつくっていた子どもはステージに立つことを楽しみ、他の遊びをしていた子どもはお客さんになって応援することを楽しんでいた</p>		<p>見てもらうこと、応援することなど一人ひとりが楽しいと思えるようにかかわる</p>
<p>【自分を大事にしている姿】</p> <p>【みんなも大事にしている姿】</p> <p>【学びと育ち】</p> <p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p>		

### 【自分を大事にしている姿】

- ・「おしゃれ屋さんをしたい」と、自分の思いが出せた（自己表現）
- ・「リボンや指輪をつくるわ」と、もっと可愛くしたい！という気持ちが出てきた（目的をもって遊ぶ）
- ・好きなことでじっくり遊んだり、自分のやりたいことを楽しんだりしている（集中力・持続力）

### 【みんなを大事にしている姿】

- ・「つくった物を並べたい」「友だちと一緒におしゃれ屋さんをしたい」（思いを伝える）
- ・遊びに必要な物を友だちや保育者と相談して、準備する場所やスタンドマイクをつくる（意欲・協同性）
- ・友だちと一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しんでいる（仲間意識）
- ・歌ったり、応援したりして、応援する人と観る人それぞれの役割を楽しんでいる（役割分担・楽しさの共有）
- ・写真つきのクリップがあることで、誰の物か分かり、自分の物も友だちの物も大事にしている（物を大事にする気持ち）

### 【学びや育ちについて】

- ・フワフワ、きらきらした物や様々な色、素材を準備することで、それらを組み合わせ自分たちなりの『かわいい』を表現しようとする姿になった。
- ・保育者も遊びに入ること、遊びを見つけにくかった子どもも「一緒に物をつくってみようかな」という気持ちが芽生え、友だちとかかわって遊ぼうとする姿につながった。
- ・イメージを伝えながら、それぞれが楽しんでいることを大切にすることで自分でより楽しくしようとする意欲をもち、自信につながった。
- ・つくった物の置き場所や表示があることで、「○○くんのやつやな」「どうやってつくるん？」と人の物への意識も高まり、友だちに「使ってもいいの？」と聞く姿や丁寧に扱おうとする姿が見られるようになった。



『協同性』『豊かな感性と表現』

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



### 【保育者の気づきや学び】

- これまでの経験をもとに、やりたいことを実現できる保育者の存在と環境が大切であると確認できた
- 舞台袖という場があることで出番までの心の準備をしたり、ドキドキ・ワクワクを友だちと共有したりすることができ、場の設定の重要性を感じた
- 同じ空間で遊べるように場を整えたり、友だちの遊びに興味をもてるように紹介したり、遊びをつなげる工夫が大切であることが分かった。また、子どもたちが何を楽しんでいるのか、どこにおもしろさを感じているのかを探ることが必要であると分かった

## 総括

### <子どもの育ち>



### <保育者のアップデート>

- ・一人ひとりの子どもが遊びの中でどのようなことを楽しんでいるかを見取る。
- ・子どものイメージや世界観を大切に、実現していけるようにしていきたい。
- ・『できた』の満足に加えて、そこに至るまでのプロセスを大切にしていく。
- ・保育者の思いと違う方向に進んでいる瞬間こそ、子どもの主体性が育っている瞬間ということが分かった。
- ・『今楽しんでいること』を広げられるスピード感をもち、環境の再構成を考えていく。

### <まとめ>

今年度は、毎月の学年会議を行ってきたことで、遊びを共有したり、悩みを出し合ったりすることができ、自分一人では気づくことができなかった子どもの見取りを知れた。また、今月と次月の指導計画の見直しをし、今月の反省を次月に活かすことができ、スモールステップでの『ねらい』や『計画』づくりにつなげられた。

【自分も大事】をたくさん経験することで相手への思いやり、【友だちも大事】な姿につなげるためには、大人からのあたたかい声かけ、見守りが土台となることを保育実践の中で確認することができた。

## 6. 5歳児

### 年度当初の子どもの姿

憧れの5歳児クラスに進級したことを喜び、新しい環境に大きな戸惑いはなく『5歳さん』と呼ばれると嬉しそうに背筋を伸ばす子どもたちだった。

個性豊かで個人差が大きい学年ではあるが、一人ひとりのやりたいことがはっきりしており「なにそれ!」「やってみたい!」と様々なことに興味を示し、したい遊びを見つけて自分の世界観で楽しむ子どもが多かった。一方で苦手意識をもつと「できないから」と最初からあきらめてしまう姿、遊びがなかなか継続しないことや素材や道具の使い方が丁寧にできない姿も見られた。

気の合う友だちとのかかわりを楽しんでいるが、思いのすれ違いからトラブルが頻繁にあった。言葉より先に叩く、押す、という方法で思いを表現する姿もあり、相手の思いを受け入れられず一方的になってしまう姿が多かった。また、振り返りの場面では自分の思いを伝えて満足し、保育者や友だちの話になるとどこか他人事で興味を示さない姿があった。

嬉しいことがあった時や困った時など、「先生見て!」「先生聞いて!」とまずは保育者に伝えに来るなど、安心できる保育者に様々な感情を受けとめてもらうことで、5月頃には少しずつ周りに目を向け始めようとする姿が見られるようになってきた。



### どのような子どもに育ててほしいか、保育者の願い

乳児期から自分が大事にされる経験を十分に積み重ねてきたからこそ、今の自分の思いをしっかりと表現できる姿、自分のしたいことを存分に楽しんでいる姿につながっていると捉えている。今年度は、もう一つステップアップできる一年にしたいと考え、『友だちとのかかわり合いを深めながら、友だちを大事にする、友だちだけでなく、周りの大人や身の回りの物、生き物や自然環境なども大事にする子ども』をめざす。

優しさがたくさん溢れている子どもの姿を認めたり、「ありがとう」と気持ちを伝えたりしていくことで、その行動のよさをクラスの中で広げていき、子ども同士のあたたかい関係性につなげていく。しかし、自分の思いを主張しすぎて、友だちの思いを受け入れられない子どももいる。思いを受けとめたり相手の思いを知らせたり、時には保育者も一緒に考えながら、友だちの思いに気づき、違う思いがあることを知る機会にしていきたい。人の話を聞く楽しみや、聞いてもらえる喜びを味わえるように、まずは少人数での振り返りや話し合いを積み重ねていく。その小さな積み重ねを通して、みんなが心地よく過ごせるためのルールづくりや、嬉しかったことを共感したり困ったことを解決したりしていけるクラス集団につなげていく。

園内研究会・事例研究会を通して

◇園内研究会を通して分かったこと：5月

【自分を大事にしている姿】

次は、ゾンビダンスがいい！



○やりたいことがいっぱい！

自分のやりたい遊びを見つけて、生き生きと満足するまで遊んでいる（意欲）（遊び込む）（満足感）

○「わたしを見て！」

人前に立って、好きな音楽に合わせて全力でダンスを楽しんでいる。自分の好きなことを友だちにも見てもらいたい（自己表現）（自己肯定感）

○「どうやってつくろうかな？」

色々な素材を使って、イメージした物をつくっている（集中力）

○目的をもって遊ぼうとする

「続きがしたい」「〇〇つくりたい」とやりたいことを保育者に伝えている（自分の思いを伝える）



ここにキラキラ  
つけたいねん



線路、めっちゃ長  
くなってきた\*

○自分の世界観を形にする

線路をつくること、線路を長くつなげること、電車を走らせることなど、それぞれが自分の世界を楽しんでいる（遊び込む）

【みんなを大事にしている姿】

○友だちと一緒に楽しむ

踊っている友だちに手拍子を送ったり、目を合わせて一緒に歌ったり踊ったりしている（楽しさを共有）



〇〇くん、  
上手やなあ！



○遊びながら、ルールを考える

紙飛行機が人に当たらないように的をつくったり、投げる順番を決めたり譲り合いながら遊んでいる

（思いやり）（譲り合い）

○「手伝うわ！」  
一人ではできないところは、友だちと役割分担する（協力・協同性）

テープいる？

○「こうやったらどう？」  
自分のイメージを伝え合いながら、同じ目的に向かって友だちと一緒に試行錯誤する（伝え合い）

こっちにつけたいねんなあ～

ここ押さえてくわ

○「大変！壊れてる」「みんなで直そう！」  
友だちがつくった“100かいだての家”が壊れたことに気づき、みんなで修理する（物を大事にする・友だちを思いやる）

○○くん今日、電車つくってたんかあ…



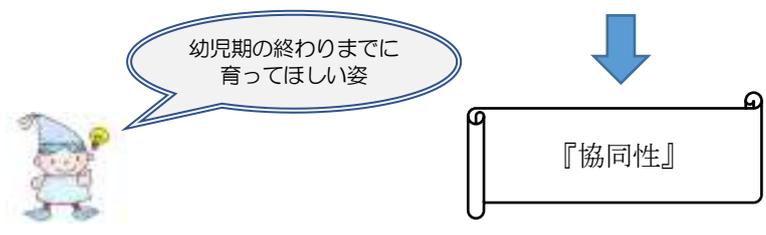
○友だちに伝えたり相談したりする  
振り返りにて友だちの遊びを知りイメージを共有したり、友だちの思いや意見に気づき共感したりしながら、友だちのことを認めようとする（友だちとのつながり）

みんな大変やあ～！100かいだての家が壊れてる～

○物の扱い方を知る  
様々な素材や道具の使い方を知り、適度な量を考えたり、最後まで片づけようとしたりする（物を大事にする）

【学びや育ちについて】

- ・安心できる環境の中で、主体性が生まれ、自己が十分に満たされることで、他者を思いやる気持ちが育った。
- ・自分のやりたいことを存分に楽しむ経験を積み重ねてきたことで、集中して遊び込む姿につながっている。
- ・自分の思いを伝える楽しさを感じることで、また話そうとする気持ちが育った。
- ・友だちと一緒に遊ぶ中で、協力したり共感したりする楽しさを味わいつつある。



◇事例研究会を通して分かったこと：9月

<事例シート>

タイトル：紙コップっておもしろい	年齢：5歳児（ほしぐみ）	時期：6月～7月
<p>ある日子どもが積み木を壁に立てかけ、高く積もうとしていた。しかし、高く積むと崩れて近くにいた友だちに当たってしまった。それを心配した子どもたちが、積み木の代わりにする物を探し、紙コップを選んだ。本事例はその日から紙コップを使って遊び始めた子どもの姿である。</p>		
<p>《 子どもの姿 や つぶやき 》 私、紙コップ配るわ 《 保育者の見取り や 環境構成・援助 》</p>		
<p>ピラミッド型や円形にしたりして、崩れても何度もやり直して遊んでいた。紙コップが足りなくなると、紙コップを使って違う遊びをしている友だちに借りたり、倉庫に取りに行ったりした。</p>	<p>倒れやんようにこっち押さえてくわ</p> <p>私の背より高くしたい！</p> <p>先生より高くしよう</p>  	<p>高く積むことが楽しいんだろうな</p> <p>何かと高さを比べることが楽しいのかな？</p> <p>いつでも高さを比べられるように、スカイツリーの写真を壁に貼っておいた。</p> <p>普段一緒にいるところをあまり見ない子ども同士でも遊んでいるな。</p> <p>高さ比べは一か月くらい楽しんでたがもう満足したのかな。</p> <p>紙コップは大事に使ってきた物だから部屋に置いておこう。</p>
<p>スカイツリーより高くしようと、何度も試行錯誤していた。難しそうだったが、数名集まって押さえ合いながら一直線に積み上げ、喜んでた。しかし、少しすると高さ比べでは遊ばなくなった。</p>		<p>高さ比べは一か月くらい楽しんでたがもう満足したのかな。</p>
<p>ある日、割りばしを使って玉飛ばしを始めた。的になる物を探し、紙コップを床に置いて使い始めた。どこに飛んでも玉が入るようにぎゅうぎゅうに詰めていた。</p>	<p>もうちょっとと紙コップいるわ</p> <p>僕持ってくるわ</p> <p>でもこのままやと的が持ち運ばれへんし、片づけ大変やな</p> 	<p>おもしろい！振り返りで他の子どもたちにも共有しよう。</p> <p>玉飛ばしの遊びが盛り上がっているので夏祭りに向けて、話し合いの場を設ける。</p> <p>子どもたちだけでは遊びが進まず、そのまま終わってしまいそう。</p>
<p>段ボールに貼る紙コップの位置を決めたり、紙コップに絵を描いたりした。</p>	<p>どうしたらいいかな？</p> 	<p>段ボールに紙コップを貼っての的にすることを提案した。</p>
<p>お店屋さんの役割が決まり、「受付」「たまひろいせいじん」「タンバリン」の名札をつけていた。</p>	<p>名札もつくろう</p> <p>玉は一人5個にしよう</p> 	<p>クラス内でお店屋さんごっこをして、気づいたことや足りない物を話し合う時間を設けた。</p> <p>忙しくて大変そうだけど、友だちと話しながら楽しんでいるな。</p> <p>夏祭り当日、一人では大変なことも、友だちと一緒にすれば楽しくなるということその日の振り返りで伝えた。</p>
<p>【自分を大事にしている姿】</p> <p>【みんなも大事にしている姿】</p> <p>【学びと育ち】</p> <p>【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】</p> <p>健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え          自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い          豊かな感性と表現</p>		

### 【自分を大事にしている姿】

- ・「これならできる」という安心感の中、積む遊びを楽しんでいる（意欲）
- ・楽しいと思ったことを、継続したり、根気よくやろうとしたりしている（遊び込む）
- ・自分が満足するまで遊ぶ（満足感）
- ・色々な形や高さなど、「こうしたい」思いをもって遊んでいる（自分の目的）
- ・「〇〇より高くしよう」「崩れないようにしよう」などの思いをもち、遊んでいる（自分の思いを伝える・試行錯誤）
- ・高く積むという目的をもち、倒れても何度も挑戦している（何度もチャレンジ）

### 【みんなを大事にしている姿】

- ・素材の違いに気づき、友だちに当たっても痛くない物を使う（思いやり）
- ・友だちと一緒に、役割分担をしたり相談したりしながら、遊びを進めている（共通の目的）
- ・紙コップを大切に使い続け、様々な遊びを楽しんでいる（物を大切にする）
- ・紙コップを借りたり、快く貸したりしている（物を共有する）
- ・積み木が当たった友だちを心配する（優しさ）
- ・遊びの中で、役割分担や遊び方、ルールを友だちと相談して決めようとする（共通理解・役割分担）
- ・紙コップを色々な遊びに使おうとする（思考力）

### 【学びや育ちについて】

- ・シンプルな遊びだからこそ、苦手意識なく継続して遊びを楽しむことができた。
- ・同じ素材を使った遊びでも、色々な遊びに変化させたり、さらに発展させたりしてアイデアを出し合っていた。
- ・一緒にやりたい友だちが増えたことで、協力したり、遊びが楽しくなるよう考えたりして、互いの思いを聞いたり伝えたりして遊びに取り入れようとしていた。
- ・一人では難しいことを友だちと一緒にしたり、試行錯誤したりすることの楽しさ味わった。
- ・高さ、大きさ、数量などを感覚的に体感することで目標がもてた。
- ・自分が楽しいと思える遊びを、異年齢の友だちにもやってあげたいと思った。



### 保育者の気づきや学び

- 遊びの中で、もっとやってみたいという意欲や、友だちと協力しようとするなど根気強く続ける気持ちが育っていく。その力が、友だちと役割分担や、物の貸し借りにつながっていることが分かった
- 簡単すぎない絶妙な遊びだからこそ、継続して楽しむことができる
- 環境の再構成のタイミングや、遊びが終わらないようにする提案が大切だと分かった
- 一つの遊びを継続することで、満足感・共通の目的・仲間意識・役割分担・一致団結・達成感などが育まれていくことが分かった。それを土台にクラスづくりをしていきたい

## 総括

### <子どもの育ち>



### <保育者のアップデート>

- ・子どもと一緒に全力で楽しみ、ともに育ち合う保育者であることを意識する
- ・子どもが友だちと一緒に考えたり工夫したりしながら、遊びをつくり上げていけるような援助や環境構成を行う
- ・子どもたちの実態に合わせた振り返りのもち方を工夫する
- ・0～5歳児までのつながりを意識して保育するようになった

### <まとめ>

保育者にありのままの自分を受けとめてもらえる安心感から、自分のしたい遊びを満足いくまで楽しめるようになった。同じ遊びに興味をもったことで、友だちと遊ぶことも増えていった。思いの違いからトラブルも経験しながら、少しずつ友だちのことも受け入れられるようになってきた。『一緒に遊ぶ』ことを通して、友だちと考えたり協力したりしながら、同じ目的に向かって遊びをつくっていくことを楽しむ姿が見られるようになった。

子どもたちの主体性を尊重することを大切にしながら、ねらいに向かって保育していきたいと思った。

保育のねらいは決まっても、過程はそれぞれであることもわかった。『遊びを通した学び』につなげていくためにも、『〇〇しようとする』過程（プロセス）の中で感じたり楽しんだり考えたり葛藤したり乗り越えたりする体験を大事にしていきたいと思った。

## 7. 一時預かり保育『くま組』

### 【子どもの姿】

一時預かりは、家庭の用事や就労、リフレッシュなど、様々な利用目的があり、保護者と離れることが初めての子どもが多い。寂しさや不安で、「ママ～」と大泣きする姿や保育室の出入り口を指差し、保護者のところに「行きたい！」と伝える姿などが見られた。また、初めての場所、初めての保育者に戸惑いを感じ、「ここはどこなの？」と周りをキョロキョロと見渡し、遊び始めるものの表情は曇っていることも多い。食事や睡眠の時に不安に感じたり、椅子に座ることを嫌がったり、寝転ぶことに抵抗があったりする子どももいる。



毎日同じ利用者が登園するわけではないので、保育者との関係をつくりにくい現状がある。回数を重ね、保育者との関係ができてくると、くま組が楽しいところと思えるようになり、笑顔で登園したり、自分から入室し遊び始めたりする子どもが増えてきている。常にメンバーが入れ替わる為、慣れてきた子どもたちも、泣いている子どもを見ると不安な表情をすることもある。

子どもを預けることに不安や心配を感じている保護者や、家庭以外の環境に触れて、様々な刺激や経験をしてほしいなどの思いをもつ保護者もいる。

### 【保育の中で大切にしたいこと】



「ほっと 安心」「くまぐみ にこにこ」をモットーに保育している。

その日の利用者の様子や姿に合わせて、個々の生活リズムを大切に過ごすことを心がけていきたい。その子にとって楽しいことは何かを見取り、どのようにしたら安心して過ごせるかを第一に考えて、興味や発達に合った玩具を用意したり、2グループに分かれて活動したりするなど、笑顔になれる環境づくりをしていく。また、保育者も子どもと一緒に遊び、「嬉しい！楽しい！」を共感しながら、全力で楽しんでいる。その姿を見て、自然と周りの子どもたちも興味をもって近づき、年齢の異なる子どもたちも同じ空間で過ごしている。小さい集団ではあるが、保育者や他児と一緒に過ごす楽しさを味わえる機会につながると考える。

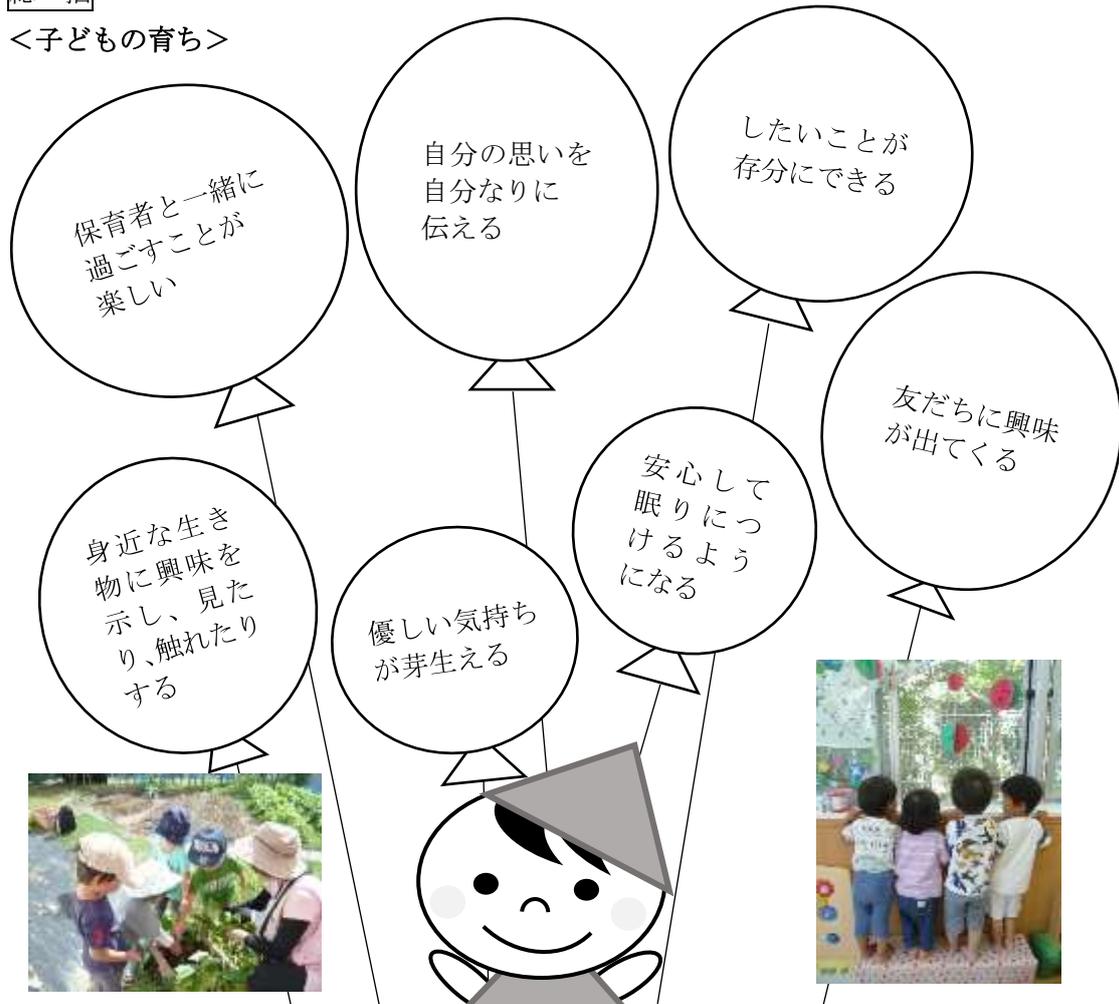
いっぽんば～し  
こちょこちょ♪  
くすぐったい！！  
先生とふれあい遊び  
楽しいな！～



保護者には、どのように過ごしていたかを写真を見せながら、笑顔が見られた場面や楽しんでいる様子などを伝え、安心できるようにしていきたい。また、子育て支援としてやりとりをする中で関係を深めていき、子育ての悩みを共有し情報提供をしながら、保護者ともつながる場になるように意識していく。その中で、保護者の求める気持ちを受けとめつつ、子どもの気持ちを踏まえたいえでの援助などを伝えていくことで家庭との連携をしていきたい。

## 総括

### <子どもの育ち>



### <保育者のアップデート>

- ・保育者は、子どもや保護者にとって安心できる存在になることが大切である。
- ・一人ひとりの姿に合わせた丁寧なかかわりをする事で安心感につなげる。
- ・子どもの「したい！やりたい！」の気持ちを受けとめ、存分にしたいことができ、満足感を味わえるような環境を整える。
- ・保育者が一緒に遊びながら仲立ちしていくことで、他児に興味もち、かかわる姿が見られるようにしていく。
- ・保育者間で子どもの様子や成長を丁寧に語り合うことで、子ども理解が深まり、共通認識をもってかかわることにつなげる。

### <まとめ>

毎日の利用者が異なる一時保育だからこそ、その日の利用者に合わせて環境を再構成したり、子どもの情報を共有し把握したり、保育者間で話し合っ進めてきた。『楽しい雰囲気』や『笑顔』を大切にしたい！という思いを共有してきたので、子どもたちにとって安心でき楽しい場所になり、日に日に笑顔が増えていったように思う。今後も保育者間で連携しながら、保護者も子どもも笑顔になれるような保育をしていきたい。



## 8. 調理員・栄養士

### 【専門職として大切にしていること】

子どもの心身の成長において食事は欠かすことができないものであるが、食事においても主体性が大事なので、好き嫌いや個人の食事量の違いも受けとめることが大切である。また、安全で安心な食事の提供は大前提であり、衛生管理の徹底をしている。誤飲、誤嚥を防ぎ、どの年齢でも安心して食べられるように大きさや硬さなどにも気をつけている。そして、『子どもにとって安心できる食事』という点で『誰がつくった食事か見える』ということが重要と考え、クラス巡回や園児との交流を率先して行い、信頼関係づくりに努めている。乳幼児期に食材に触れるなど、食へのプロセスへ携わる活動を子どもたちと進めている。

### 【取り組みについて】

今年度、『笑顔あふれるごはんの時間』を調理の年間目標とし、子どもたちが『食事の大切さ』『食事の楽しさ』『特別感』を感じ、食事の時間をもっと楽しめるように取り組んできた。



調理員から活動内容を提案し、保育者と連携してお手伝い活動を行ったり、食育に関する壁面の掲示物の作成を行ったりしてきた。活動内容としては、玉ねぎの皮むき、しめじやブロッコリーちぎりをしたり、季節の食材（春はえんどう豆やそら豆の皮むき、夏はとうもろこしの皮むきなど）に触れたりする機会をつくってきた。また、味見当番の取り組みも『特別感』を演出するにはよい方法であり、5歳児クラスを対象に実施している。

栄養士による栄養指導では3～5歳児クラスを対象に、絵本の読み聞かせから始め、調味料やだし汁の試食や試飲、マナーの話などを実施してきた。

わかった！



お手伝い活動に子どもが参加した時や栄養指導をした時にはポートフォリオで保護者へ発信するとともに、地域の方や園を訪れた方々にも知ってもらえる機会としている。

### 【分かったこと・今後も大切にしたいこと】

様々な食材に触れることや栄養指導を受けることで、食材に興味をもったり、食事に関心を示したりする様子が見られた。また、クラス巡回をする中で、「見てて」と言って自分から食べようとしたり、「今日の給食美味しい」「つくってくれてありがとう」と声をかけてくれたりする姿も増えてきている。子どもが苦手と感じる食材でも、香りや旨味を活かした味付け（子どもたちにとって美味しい味）を大切に、環境やプロセスを工夫することで食事の時間が楽しみとなって、主体的に食べてみようと思えるようにしていきたい。そして、子どもとの信頼関係を大切にしながら、食を通じた様々な活動を通して、『自分もみんなも大事』と思えるような子どもたちの育ちを支えていきたい。

## 9. 看護師

### 【専門職として大切にしていること】

こども園の看護師の役割は、子どもたちの健康管理・健康教育・病気やケガなどの対応・事故防止・感染予防・保護者対応・職員の健康管理など多岐にわたる。そのため、専門的知識や技術も必要となる。子どもの健康と安全を守るためには、保育者や保護者と協力し合うことも大切である。

こども園が安心して安全に過ごせる場所であり、子どもが健康への関心をもち、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つように援助している。

### 【取り組みについて】

幼児クラスに毎月保健指導を行っている。子どもたちが興味をもって楽しく習慣化できるように子どもが自ら体験したり、触れたりする教材を作成した。指導後は保護者への指導内容の周知のため教材を保健室前に掲示し、保護者と一緒に考えるという機会をもった。



パパにも教えてあげよう！

お茶はいいねんで！

《ジュースの飲みすぎに注意！》  
飲み物に入っている砂糖の量を知らせるために角砂糖をペットボトルに入れてみた。ペットボトルを振って砂糖の重さを感じてくれたかな？保護者もその重さや砂糖の量に驚いていた。

《手洗い名人になろう！》  
手洗いの方法を立体的にすることで解りやすく興味をもって触っていた。正しい手洗いの方法を子どもが自ら保護者に知らせていた。



へえ～、歌があるんだ

♪おねがい～ かめさ～ん

みんなのうんちは？



バナナうんちだった～

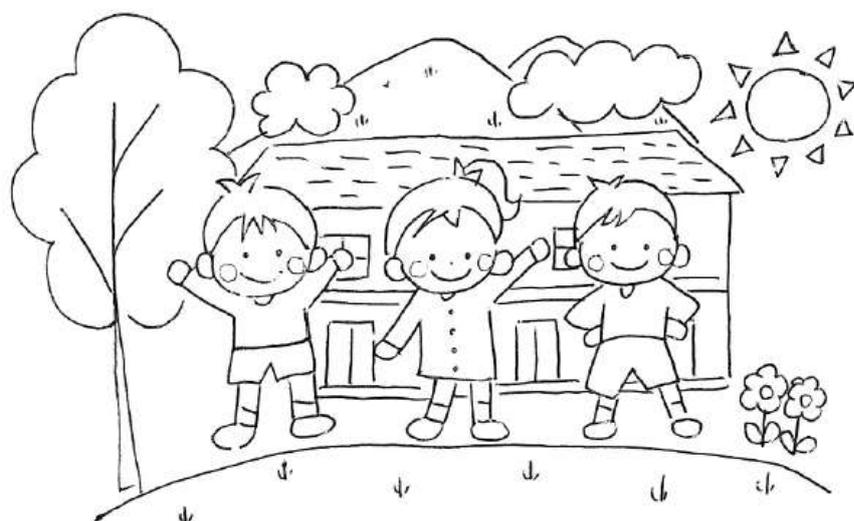
《今日のうんちは？》  
保護者とどんなうんちが出たか見てもらえるようにした。子どもは絵を見ながら、自分のうんちの状態を伝えていた。

### 【分かったこと・今後も大切にしたいこと】

子どもたちが興味をもって楽しく保健指導を受けることで、正しい手洗い方法など丁寧に生活しようとする習慣がついてきた。また、教材を見えるところに掲示することで、親子との会話が増え、保護者にも健康について関心をもってもらえるようになってきたと感じる。

今後も子どもたちだけでなく、保育者や保護者と協力して、子どもたちの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養っていけるように援助していきたい。

### 第3章 ほっと安心・笑顔いっぱいのかども園



### 第3章 ほっと安心・笑顔いっぱいのこども園

#### 1. 自分も大事、みんなも大事にしようとする子どもを育てために

##### (1) カリキュラムの充実

研究1年次では、『みんなでつくろう ほっと安心 笑顔いっぱいのこども園』をテーマに研究に取り組むことで、子どもの自尊心や自己肯定感を高めるためには、保育者の肯定的な見取りにもとづいた、あたたかいかわりと発達段階に応じた環境構成が重要であることを確認した。

研究2年次は、1年次の学びを活かし、サブテーマである【自分も大事】【みんなも大事】に視点をおき教育・保育を進めてきた。子どもの姿を具体的に見取り、そこにはどのような学びや育ちがあるかを考えることにした。子どもの姿に対する視点や保育者の思いが常に同じではないことから、自身の考えを発言したり語り合ったりする場を大事にしてきた。正解をめざすのではなく、多様な見方や考え方を知ること、保育内容の幅を広げたり、子どもの学びや育ちにつなげたりしてきた。

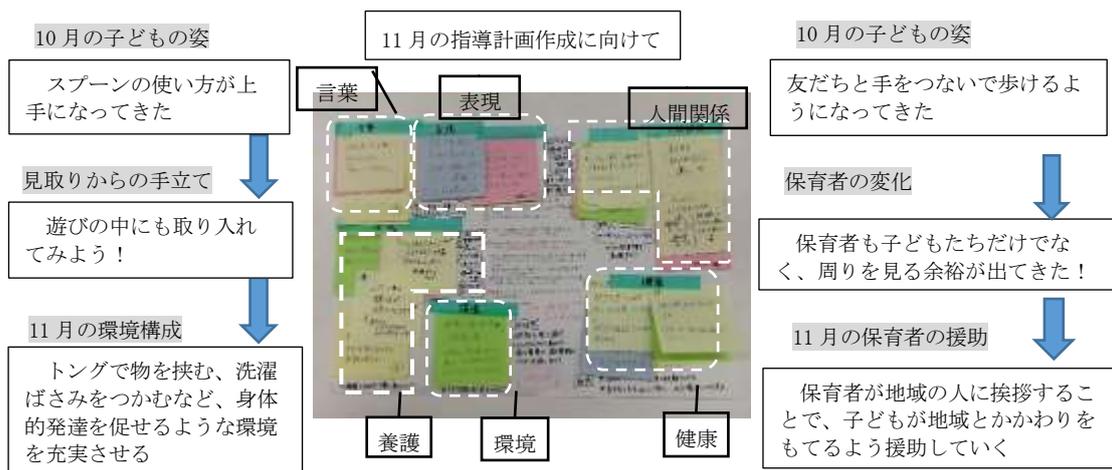
##### 【学年会議で子どもの学びや育ちを考える】

学年会議では、カバー体制を整え、学年の担任全員が集まれるようにした。子どもの姿から、育てたい姿に向けた保育者の援助や環境構成など、次月の指導計画作成に向けて検討した。

##### ○ 1歳児の学年会議より

**ねらい** 11月の指導計画作成に向けて、10月の子どもの姿から環境の再構成を考える。

**方法** 5領域に分けて、子どもの姿を付箋で出し合い、指導計画につなげる。



##### ○ 4歳児の学年会議より

**ねらい** 10月の指導計画の評価での子どもの姿から、どのような環境が適切かを考える。

**方法** 指導計画の評価の過程で、子どもの遊ぶ姿について語り合い、環境構成につなげる。

**内容** 『飛行機飛ばしが保育室の中で、盛り上がってきたんです!』



### 《成果》

各学年、会議スタイルに違いはあるが、それぞれの進め方で子どもの姿を出し合い、学びや育ちを振り返ることができた。すると、次に予想される子どもの姿が明確になり、保育者の必要な手立てや援助、環境構成について具体的に考えられるようになった。

多様な意見を参考にしながら、これらを学年全員の共通理解のもと次月のカリキュラムの中に落とし込んで実践に活かすことができた。保育者は、今の子どもの姿を肯定的に見取ることができ、子どもが主体的に生活や遊びを進めようとする姿につながった。

### 【ダイアリーから子どもの学びや育ちを考える】

各クラスの、ダイアリーから、どのような姿を【自分も大事】【みんなも大事】と捉えたかを中心に、グループワークに取り組んだ。そこからどんなことが分かったかを考察した。

〇〇歳児 5月 ダイアリー（個人記録）より

友だちと玩具の取り合いになり、「いーいー」と言い手を放さない姿があった。  
寝起きで自分の布団に友だちが乗っていると「てててて」と怒って引っ張っていた。



【自分も大事】

- ・自分の物！という気持ちが育った 学び→自他との区別がついてきている  
(使っている物を取られている意識がなかった)
- ・そのもの（玩具）で遊びたい興味が広がっている 学び→やりたい意欲がでてきている
- ・違う物を渡しても（提案）嫌がる 学び→自分の思いを貫く
- ・自分の思いを貫くという気持ちが芽生えた 学び→物を大事にするにつながる手前

<考察>

これまで、自分の使っていた物を取られても気にしている様子がなかったが、玩具を取り合う姿や自分の布団に友だちが乗っていることに怒っている姿から『自分の物』と認識し、自分と他人との区別がついてきていると分析した。

また、玩具の取り合いから、興味の広がりややってみみたい意欲が出てきていると見取った。自分の物であるという主張は、自分の思いを貫くことの芽生えであると捉えた。その思いは『物を大事にする』ことにつながる手前の段階であると考えた。

○2歳児 4月 ダイアリー（一日の流れと子どもの姿）より

園庭に出る前から「ダンゴムシいるかな？」と楽しみにする姿があり、園庭に出ると以前、ダンゴムシを見つけた場所や草をかき分けて探す姿があった。

保育者とA児・B児で探しているとミミズを見つけテラスに置いて観察していた。

(ミミズを)持てるA児が他の保育者に見せに行こうと滑り台のところへ行くと、たまたま落ちたのかミミズが滑り台の上に乗った。ウニョウニョと降りていく様子を数人の子どもが見ていると、「何をしているの?」と、B児やC児も加わり、1匹のミミズの動きを共有する楽しい時間になった。動きを言葉で伝えたり「歩いたところが濡れている！」など様々な発見をしたりしている。



【自分も大事】

- ・ 戸外へ行くのが楽しみにする
- ・ 夢中になって興味のあることをしている
- ・ 「見て」と伝えに行く
- ・ 思っていることを伝える
- ・ 好きなことを存分に楽しむ
- ・ 安心できる人への自己表現

【みんなも大事】

- ・ 楽しさを一人占めせず、みんなで見ている
- ・ 「何してるの?」と2歳児なりに様子を伺っている
- ・ 思っていることを伝え合う、見ている
- ・ 押し合わず、何となく譲り合う
- ・ ミミズに興味をもっている
- ・ 友だちへの思いやり
- ・ 簡単な見通しをもって過ごす
- ・ 生き物を大切にする

<考察>

『ダンゴムシ探し』を楽しみにしている姿や、探す姿から『夢中になれることを見つけている』と捉えた。保育者に「見て!」と伝える姿から『思っていることを伝える力』や『安心できる人に自己表現する力』が育っている。

「何をしているの?」と周りへの興味を示し、言葉で伝える姿から周りの“ひと・もの・こと”を意識していることが分かった。場を譲り合う姿から、友だちと一緒に楽しもうとする気持ちをもち始めたことも分かった。

○3歳児 4月 ダイアリー (好きな遊び～バスごっこ～) より

◎環境構成 ☆保育者の援助 ※評価

2号児だけの時に遊んでいたが、今日は朝から用意をしてバスごっこを始める。

◎警察の帽子があったので、バスのイメージになったのか、バスごっこを始めた。

椅子を並べているとA児は「何？」と思ったのか座っている。

A児「バスの歌して」

☆♪バスごっこ

曲がなると、2号児はノリノリで「ゴーゴー」と言うが1号児はびっくりしたようで、椅子からおりて見ていた。

※1号児と2号児の遊びのペースが全く違うと感じた。楽しめるスペースを工夫していく。



【自分も大事】

- ・自らかかわろうとする『意欲』
- ・自分のしてほしいことを伝えることができる『発信』

【みんなも大事】

- ・(椅子を) 1台ではなく、たくさんの椅子を並べている姿がみんなも大事につながる

<考察>

自分からバスごっこにかかわろうとする姿から、遊びへの意欲を示しており、「バスの歌して」の言葉から自分のしてほしいことを伝える『発信力』が育っている。

椅子を何脚も並べ、場を共有することで『一緒に楽しむこと』につながった。

<成果>

毎日の記録から、ねらいにもとづいた環境構成と保育者の援助を行うことで、【自分も大事】【みんなも大事】につながる姿として見取り、どのような学びや育ちとなったかを確認することができた。



(2) 子ども主体の保育をめざす保育者

【『保育者のまなざし』を考える】

藤原先生からの指導助言を受け、グループワークで子どもを見守るときの保育者の『まなざし』について考えた。どのようなときに『指導的・管理的まなざし』になるのか『人間として信頼するまなざし』で子どもたちを見ているのはどんなときか、を具体的に出し合い、保育を振り返ったり、見直したりして、保育者の人権感覚を磨く機会とした。

【『指導的・管理的まなざし』】

どのようなとき? ↓

- ・避難訓練 ・食事 ・プール
- ・散歩 ・はさみを使うとき など

【『人間として信頼するまなざし』】

どのようなとき? ↓

- ・やりたいことや物を自分で選ぶ
- ・自分のタイミングで行動する
- ・自分の思いが尊重される など

～保育者の気づきや学び～

保育者の言葉かけは、『指導的・管理的まなざし』にも『人間として信頼するまなざし』にもなる。どのような言葉かけが子どもの心に届くのかをよく考えてこれからも保育していきたい。



『人間として信頼するまなざし』とは、どういう場面かあまり浮かばなかった。他の人の意見をきいて、今まで子どもに対し自分の意見を押しつけていなかったか考える機会になった。もっと子どもの思いに寄り添いたい。

『まなざし』について保育を見直していくと、一つひとつの遊びや行事についての考え方も変わった。子ども一人ひとりの行動の意味を立ちどまって考えるようにしたい。

保育中ゆとりがないと、『指導的・管理的まなざし』で接してしまっていたかもしれない。自分が子どもの立場だったら…と考えながら、接していきたい。

《成果》

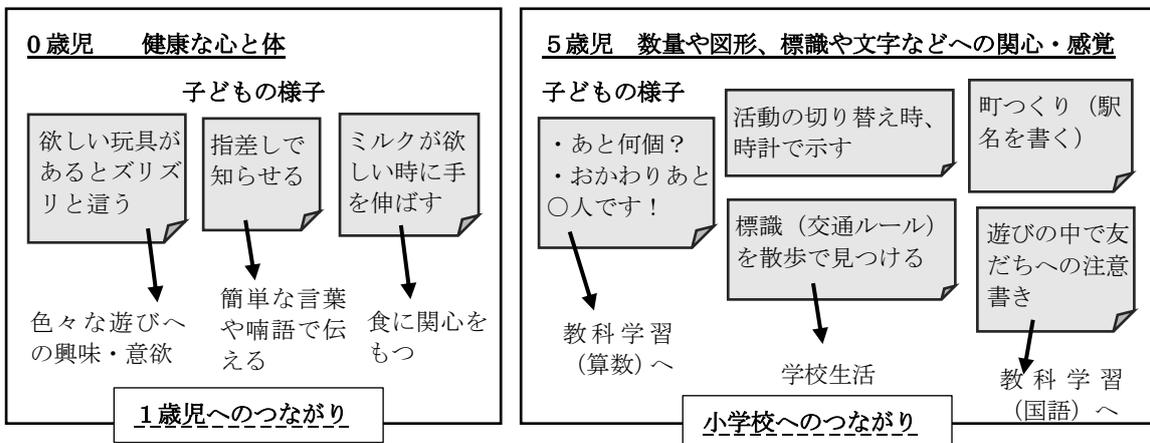
園生活の中には、時として『指導的まなざし』が必要な場面もある。それは、園という集団の中で、子どもたちの安心・安全を確保するためである。しかし、私たち保育者は、子どもたちの学びや育ちにつながるよう『人間として信頼するまなざし』を心がけていきたいと思う。

それぞれの『まなざし』について具体的な場面を思い浮かべて共有することで、場面に合った適切な『まなざし』をより意識できるようになってきた。また、子どもの人権を尊重した伝え方、援助のあり方、タイミングなど、“子どもファーストで考えられる保育者”“保育者としての役割”を再確認できた。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）と実践のつながりを考える】

研究を進める中で、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）』から育ちの方向性を確認してきた。項目は知っているが、内容と実際の子どもの姿とのつながりの認識をより深めるために、グループワークを行った。

項目の中から1つを選んで、そこにつながる子どもの姿について考え方を出し合い、次の学年へのつながりを共有することにした。



## 《成果》

幼児期までに育ててほしい姿（10の姿）の項目の1つに絞って話し合うことで、子どもの姿を捉え、新たな子どもの姿に気づくことができました。また、生活や遊びの中に見られる子どもの興味・関心が、学びや育ちにつながっていることを確認した。発達段階の違いを知り、改めて一人ひとりを尊重した保育が大切であるということが分かった。

### 【生活と遊びを豊かにする保育環境を考える】

子ども一人ひとりが主体性を十分発揮できる適切な環境づくりをするために、生活や遊びの一場面から、子どもの姿や保育者の援助などを出し合い、0～5歳児の発達の過程や環境について考えた。

#### 生活（食事）

	子どもの姿		保育者の援助	環境	
0歳児	食とのであい（母乳・ミルク・食材）	手づかみで食べる	食べ方を知らせる 一口量の調節	安心して食べられる環境づくり	
1歳児	食事の好みが出る（味・食感）	食具を使う	食事が楽しくなる 声かけをする 食べられる量や大きさの把握	体にあった椅子や机の用意	食育活動
2歳児	好き嫌いが出る	食具を使って自分で食べる	食材の名前を知らせる 食べられる自信につなげる	楽しく食べられる雰囲気づくり	栽培活動
3歳児	食材を知り、食べようとする	食具の上持ち 3点持ち	自分で完食できる 量の調節をする		
4歳児	苦手な物を知り、保育者に知らせる	箸を使う 食具の選択	自分で食べられる量を選ぶ	自分で選んで取れる環境	
5歳児	バランスよく食べる	マナーを意識して食事をする	意識して食事ができる声かけをする	食事に期待がもてるようにする	▼ ▼

#### 遊び（つくって遊ぶ）

遊び	子どもの姿	保育者の援助	環境
0歳児	手にとってみる	行動や表情を言語化していく	安心して過ごせる環境をつくる
1歳児	「やって」「つくって」と伝え、できた物を見立てて遊ぶ	思いを汲み取り、代弁して仲立ちしていく	興味のあるものを用意しておく
2歳児	身近な物を自分なりにイメージして、遊びにつなげる		量はたくさん準備する
3歳児	『やってみたい』という思いを出せるようになる つくってできあがってから、イメージがわく	思いを汲み取って、形になるように援助する	目、口、耳などイメージが広がるような、分かりやすい物を準備しておく
4歳児	イメージはあるが、形にならない 様々な道具を使ってみたい	使い方や適切な量が分かるよう援助する	自分で扱える材料や用具を準備しておく
5歳児	使いたい物を自分で考え選んで、イメージした物をつくる	子どもたちの必要なタイミングで、さりげない援助をする	続けて遊べる環境を確保する

## 《成果》

0歳児は、環境とのであいから生活や遊びが始まり、安心できる環境の中で保育者に見守られながら、『やってみたい』意欲が芽生えていく。乳児期には、自分の思いや意思を様々な表現で伝えようとする姿が見え、幼児期になると、自分の思いや意思を言葉で表出することが多くなる。そして、5歳児になると、経験や知識を活かして自分なりに適切な方法を考え

たり、必要なものを選択したりしながら、めあてを達成しようとするのが分かった。保育者は子どもの思いを受けとめながら、一人ひとりの興味・関心に応じた援助や環境構成を行っていくこと、発達を考慮しながら必要に応じた援助をしていくことが大切であることが分かった。

連続した学びや育ちとなるように、0～5歳児までの発達段階を意識しながら環境づくりや援助を行っていくことで、子どもの意欲や自信が高まり、主体的に物事にかかわったり、挑戦したりするなど生き生きと遊ぶ姿につながるようになった。

## 2. 研究を通して分かったこと

研究に取り組むことで、職員が研究テーマに向かって同じ視点で保育実践を行ってきた。子どもの姿を見取り、何を楽しんでいるのか、どのような学びや育ちがあるかを考え、評価・反省・改善を行い、翌日の保育へとつなげるというサイクルが回り、そこには【自分も大事にする姿】や、【みんなも大事にする姿】がたくさんあることが分かった。保育者が願いや意図をもって子どもとかかわり、適切な環境を整えることで、子どもたちの姿が変わっていくことを実感し、保育者自身が、専門性（保育者の役割）をより意識して保育するようになってきた。子どもの姿を肯定的に捉え、子どもを一人の人として尊重するかかわりを行い、その保育者のまなざしが子どもたちの主体性の発揮につながり、学びや育ちを支えているということも分かった。

園内研究会、事例研究会、園内学習会、学年会議などの場で、保育者が子どもの姿について話し合う機会が増えたことで、子どもの姿を肯定的に捉えて保育者が語り合ったり、悩みを相談したりする場面が多く見られるようになり、職員間の同僚性が高まってきた。さらに、同学年だけでなく他学年にも目を向け、気軽に交流する雰囲気ができてきた。そして、今年度からスタートした学年会議では、学年の保育者が全員集まり、子どもの姿や環境構成、保育者の援助について語り合い、次月の保育を考えることを共有し、子どもの学びや育ちにつながる保育実践に取り組もうとする意識が高まった。

また、看護師や調理員・栄養士などが健康面や食事面において、子どもたちと直接かかわりながらそれぞれの専門性を活かした取り組みを進めることも、子どもたちが【自分も大事】にすることにつながっていることを確認した。掲示物を使って発信していくことで、保護者と子どもが会話する姿にもなり、子どもたちが積極的に取り組む姿にもなった。

乳児期に周りの大人から大切にされる経験があることで、【自分を大事にする】基礎が育まれる。また、様々な“ひと・もの・こと”に触れる経験を繰り返すことで、【みんなを大事にする】気持ちが育っていく。保育者が一人ひとりに丁寧にかかわり、愛着関係や信頼関係を築くことで、子どもたちは主体的・意欲的に生活したり遊んだりするようになってきた。そして、地域とのかかわりも立地条件を活かした環境（電車、川、学校など）を通して、子どもたちが様々な経験ができるよう提案や工夫している。保育者自身が地域を知り、近隣のこども園、小学校や中学校に計画的に依頼することで、前年度に比べて交流が増え、子どもたちや保護者が交流を楽しみにする姿が見られた。小学校や中学校とは、園に来てもらう交流だけでなく、散歩に行かせてもらうことで、様々な人とかかわる機会となった。また、散歩などで保育者が積極的に地域の方に挨拶をする姿を見て、子どもたちも自然と挨拶をする姿

が見られるようになった。地域の方にも、こども園のことを知ってもらうきっかけになっている。

“ほっと安心 笑顔いっぱいのかども園”で過ごす子どもたちが【自分も大事】【みんなも大事に】することで、豊かな学びや育ちへつながることが、研究を通して明確になった。

### 3. おわりに

こども園で過ごすみんなが、【自分も大事】、【みんなも大事】にしようとすることで、安心や笑顔いっぱいの毎日を過ごせるのではないか。それは、自分一人だけではなく、みんながいるからできること！という思いを込めて、「みんなできよう！」と1年次の研究が始まった。“研究ってどうすること”“何か特別なことをしないといけない？”と緊張や不安を感じながらスタートしたのが2年前。園内研究会では、常磐会短期大学 非常勤講師の藤原範子氏に、自園の保育への指導助言、講演をしていただき、保育の中で大切なことをご教示いただいた。保育者は、“こうだろう”という思い込みや“こうするべきだ”という管理的なまなざしのみで保育を行うのではなく、“子どもの『今』を見る”、“子どもが何に興味をもっているのか”“何を楽しんでいるか”など、常に子ども目線で考えることを意識できるようになった。また、子ども理解をするために、まずは子どものしている遊びを一緒に楽しむことも大事に取り組んできた。そして、1年間、安心、笑顔いっぱいにつながっている子どもの姿の中に、それを支える保育者の役割を共有し、その重要性を実感することができた。2年次は、「団結だ！」と声をあげ、保育者が主体的に話し合えるように、保育をカバーし合ったりする姿があった。そんな保育者の姿からは、『専門性を高め、学び続けようとする意欲』や、『担当学年だけでなく、周りにつながり園の保育の充実をめざそうとする協働性』を感じることができ、研究テーマに向かって、一丸となって取り組む姿勢・雰囲気がみんなの励みと力になってきた。“ほっと安心 笑顔いっぱい”【自分も大事】【みんなも大事】が合言葉になり、子どもの姿や保育者自身の思いなどを「これって自分も大事だね」「それってみんなも大事ってことだね」という会話や保育記録の中で見聞きすることが増え、確かな足跡になっていっていることを実感できた。

2年間の研究を通して、様々な保育者や保育にかかわる人とのつながりの中で、色々な考え、意見に触れたり新しく知ったり、また、これまで大切にしていたことを再確認できた。その保育者の意識改革で、子どもの姿が変わり、学びや育ちを確信することができ、それが保育者自身の学びの深まりとなり、専門性の高まりにつながった。また、保育をみんなできようになってきたことが園全体の保育の質の向上となり、子ども、保護者、保育者にとっての“ほっと安心、笑顔いっぱいのかども園”になってきたと感じている。

2年間の研究で学んだ、『自分を大事にするということは、それにかかわるみんなも大事にしていること』を心に、今後も生活や遊びが子ども一人ひとりのよりよい未来につながるには、どのような経験をし、教育・保育を充実させていくことが大切であるかを、考え、悩み、協力し合いながら学び続けていきたい。



---

---

令和5・6年度 幼児教育研究

みんなでつくろう ほっと安心 笑顔いっぱいのかども園  
～自分も大事 みんなも大事～

< 2年次 研究報告 >

八尾市立南山本せせらぎかども園

令和7年1月 発行 (R6-148)

【発行】 八尾市  
八尾市教育委員会  
〒581-0003 八尾市本町一丁目1-1  
【TEL】 072-991-3881 (代表)

---

---

